

令和8年度

「基礎学力調査」

— 分析・考察と指導事例 —

令和8年10月
石川県教育委員会

目 次

本書の構成	1
-------	---

I 教科に関する調査結果の分析・考察

II 質問調査結果の分析・考察

本書の活用にあたって	2
------------	---

I 教科に関する調査結果の分析・考察	3
--------------------	---

《小学校第4学年 国語》 6

《小学校第4学年 算数》 12

《小学校第6学年 社会》 20

《小学校第6学年 理科》 26

《小学校第6学年 英語》 32

《中学校第3学年 社会》 40

《中学校第3学年 理科》 46

II 質問調査結果の分析・考察	53
-----------------	----

1 小学校第4学年児童の調査結果 55

2 学習・生活状況と正答率との関係 62

3 教員の調査結果 65

本書の構成

I 教科に関する調査結果の分析・考察

(1) 全体的な傾向の分析・考察

- ・全体的な結果の状況

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

- ・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正 答 率	「到達状況」を示す記号、用語
90%以上の場合	◎：良好である
80%以上～90%未満の場合	○：概ね良好である
70%以上～80%未満の場合	◇：基準に到達している
60%以上～70%未満の場合	▽：十分とはいえない
60%未満の場合	▼：不十分である

- ・分析・考察及び学習指導に当たって留意すべきこと等
- ・参考となる他の指導事例や過去の調査問題
- ・指導改善のポイント

(3) 改善に向けた指導事例

- ・教科ごとに、改善に向けた指導事例を2事例記載し、以下の内容を示す。

	項 目	内 容
①	問題と解答の状況	・設問番号、領域・分野、出題のねらい、評価の観点 ・関連問題 ・正答（例）、誤答例、正答率、誤答率、無解答率
②	指導改善に向けて	・解答状況の分析・考察 ・指導改善の具体的なポイント
③	改善事例	・学年、単元（指導内容等） ・指導のねらい ・具体例

- ・関連する「プラス学びの12か条+」（巻末資料参照）の項目を右のように示す。

学びの12か条+ ○

II 質問調査結果の分析・考察

(1) 小学校第4学年児童の調査結果

- ・設問ごとの経年比較、学年間比較

(2) 学習・生活状況と正答率との関係

- ・正答率との関係を基にした分析・考察

(3) 教員の調査結果

- ・設問ごとの経年比較

本書の活用にあたって

「教科に関する調査結果の分析・考察」のページでは、以下のように、取り上げた問題に関連した指導事例や調査問題、指導に当たって留意すべきこと等を記載してあります。今後の授業の参考、取組の検証にご活用ください。

○学校第○学年 教科

県平均正答率	学校正答率
○○.○%	%

(1) 全体的な傾向

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【領域・分野名】 (県平均正答率○○.○%) (学校正答率 %)

◎：出題の趣旨（設問番号）

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
○		○○.○%	%
○		○○.○%	%
○		○○.○%	%

(県) H○○：事例○
(県) R○○：○○

指導改善のポイント

□ (→ 事例1)
□ (→ 事例2)

①参考となる他の指導事例

②参考となる調査問題

③学習指導に当たって

④指導改善のポイント

学校正答率記入欄
(自校の正答率を記入して、分析に活用してください。)

学校正答率記入欄

① 参考となる他の指導事例

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) …「全国学力・学習状況調査 報告書」及び「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」に掲載されている事例
- (県) …「基礎学力調査－分析・考察と指導事例－」に掲載されている事例
- (P) … WEB サイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている事例

② 参考となる調査問題

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) … 全国学力・学習状況調査で出題された問題
- (県) … 本県の基礎学力調査で出題された問題
- (P) … WEB サイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている評価問題

③ 学習指導に当たって

取り上げた問題について、調査結果を受け、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを、箇条書きで記載しています。

④ 指導改善のポイント

今年度の調査結果より、特に課題が見られた問題について、指導改善のポイントを記載しています。

I 教科に関する調査結果の分析・考察

小学校 第4学年
「国語」「算数」

小学校第4学年 国語

県平均正答率	学校正答率
60.2%	%

(1) 全体的な傾向

令和8年度の平均正答率は60.2%で、到達状況は十分とはいえない。領域別では、「知識及び技能」の到達状況は十分とはいえないが、7年度より4.8ポイント上回っている。「話すこと・聞くこと」領域、「書くこと」領域、「読むこと」領域の到達状況については、不十分であるが、「書くこと」領域は11.8ポイント、「読むこと」領域は11.0ポイント、7年度より上昇している。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【知識及び技能】 (県平均正答率：66.5%) (学校正答率： %)

○：基本的な漢字を読んだり書いたりすること〔八〕

設問八の正答率については、87.0%であり、概ね良好である。特に、漢字の書き取りについては、今後も当該学年までに配当されている漢字を、文や文章の中で使う指導が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八	① 漢字の書き取り(こうえん)	77.0%	%
	② 漢字の書き取り(ふるい)	87.1%	%
	③ 漢字の読み(洋服)	90.5%	%
	④ 漢字の読み(転ぶ)	93.2%	%

◇：日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読むこと〔六②③〕

設問六②③の正答率については、77.3%であり、基準に到達している。今後も、ローマ字を読んだり書いたり、端末に入力したりする学習活動を通して、日本語の音が、子音と母音の組み合わせで成り立っていることを理解できるような指導が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
六	② ローマ字の読み(sekken)	80.0%	%
	③ ローマ字の読み(kingyo)	74.6%	%

▼：指示する語句の役割について、理解すること〔四2〕

設問四2については p.8 参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
四	2 指示語	45.0%	%

(県) R 4：事例1

(県) R 6、7：三1 R 5：三2

- ・日常の話したり聞いたり書いたり読んだりする指導場面において、指示する語句の役割について理解したことを生かすことができるような学習活動を充実させること
- ・「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」が一体となって働くような学習活動を充実させること

【話すこと・聞くこと】 (県平均正答率：59.1%) (学校正答率： %)

▽：互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて質問すること〔一2〕

設問一2の正答率については、69.9%であり、十分とはいえない。

指導に当たっては、話題を確かめた上で、相手の考えを自分の考えと比べながら聞き、相手の発言を受けて質問をする学習活動を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一	2 話合いの進め方(質問をする)	69.9%	%

(県) R 7：事例2

(県) R 3、R 7：一2

▼：目的や進め方を確認し、司会の役割を果たしながら話し合うこと〔一4〕

設問一4の正答率については、29.0%であり、不十分である。

指導に当たっては、司会の役割を理解し、話合いが目的に応じて適切に進行するように、参加者に発言を促したり、話し合った内容をまとめたりすることができるような学習活動を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一	4 話合いの進め方(話をつなぐ)	29.0%	%

【書くこと】 (県平均正答率：57.1%) (学校正答率： %)

▽：間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること〔三1表記〕

設問三1表記の正答率については、69.9%であり、十分とはいえない。

指導に当たっては、児童自身が間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすることによって、整った文章になることが実感できるような学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
三 1表記	推敲（表記）	69.9%	%

(県) R 3：事例1

(県) R 6、R 7：八1表記

▼：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること

〔三1内容〕

設問三1内容の正答率については、26.6%であり、不十分である。

指導に当たっては、相手や目的を意識し、自分の考えと、それを説明するために取り上げた理由を区別して書くことができるような指導を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
三 1内容	考えの形成、記述（内容）	26.6%	%

(県) R 6、R 7：八1内容

【読むこと】 (県平均正答率：44.2%) (学校正答率： %)

▼：段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること〔二1〕

設問二1については、p.10 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二 1	説明的文章の構造と内容の把握	41.7%	%

(県) R 6：事例2

(県) R 3：二1 R 1、2：二2

書き手の考えがどのような事例によって具体化されているのかを正確に捉え、「始め-中-終わり」の「中」だけでなく、文章全体の内容を把握する学習活動を充実させること

▼：目的を意識して、中心となる語や文を見付けること〔二2①②〕

設問二2の正答率については、33.1%であり、不十分である。

指導に当たっては、読む目的を明確にした上で、中心となる語や文を見付けることができるような学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二 2①	説明的文章の精査・解釈	29.6%	%
二 2②	説明的文章の精査・解釈	36.5%	%

(県) R 6：事例2

(県) R 7：二2①② R 6：二1①②

指導改善のポイント

□指示する語句が指し示していることを文脈に沿って考え、指示する語句の役割について、理解したことを生かす学習活動を充実すること (→ 事例1)

□読む目的を明確にし、書き手の考えと、その理由や事例との関係を正確に捉える学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+ 1・5

ア 事例1

指示する語句が指し示していることを文脈に沿って考え、指示する語句の役割について、理解したことを生かす学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
四2	知識及び技能	指示する語句の役割について理解している。	知識・技能
四2 【小川さんのカード】の「それ」は何を指していますか。【小川さんのカード】の中の言葉を使って、六字で書きましょう。			
正答例		誤答例	
よごれたくつ		・くつがよごれ ・安全なやり方	
正答率		誤答率	無解答率
45.0%		34.3%	20.7%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「指示する語句の役割について理解している」であり、正答率は45.0%と不十分である。誤答としては、指示する語句が何を指すのかが分かっていないものや、「くつ」を指すと分かっているが適切に表現できていないものが見られた。要因としては、指示する語句が指し示している言葉は、その直前にあるという指導にとどまり、文と文との内容のつながりなどを明瞭に表す役割をしていることを理解できるようにする指導が不十分であると考えられる。また、〔知識及び技能〕の指導事項を取り上げて指導することにとどまり、話したり聞いたり書いたり読んだりする学習場面において、身に付けた「知識及び技能」を活用し、適切に表現する場面の設定が不十分であることも要因だと考えられる。

指導に当たっては、生きて働く「知識及び技能」を身に付けるために、〔知識及び技能〕の指導事項と〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項との関連を図り、両者が一体となって働き、適切に表現できるような学習活動を充実させることが大切である。指示する語句の役割については、第3学年で指導をするが、機会を捉えて繰り返し指導をすることが大切である。本事例では、単元の指導事項に〔知識及び技能〕(1)カ(指示する語句に関する指導事項)は取り上げられていないが、日常的な指導の必要性を考え、本単元における指示する語句の取り上げ方を改善事例として示す。

③ 改善事例 第4学年「白いぼうし」 光村図書四年上

1 指導のねらい

・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(読むこと(1)イ)

2 具体例

言語活動：物語を読み、内容を説明したり、考えたことを伝え合ったりしよう

単 元 計 画	第一次	1	・『白いぼうし』を読み、不思議だと思ったことについて考えたことを伝え合う」という学習の見通しをもつ。
	第二次	2	・「白いぼうし」を読んで、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。
	第三次	7	・不思議だと思ったことについて、自分の考えをまとめ、伝え合う。

第二次 3時：「白いぼうし」を読んで、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。

前時には、松井さんの行動や会話、地の文などの叙述を基に、気持ちを捉えている



最初にみんなで決めた、学級の問い「なぜ松井さんには、『よかったね。』『よかったよ。』という声が聞こえたのかな」という不思議を解き明かすことができましたか。



行動や会話に着目したけれど、どうして松井さんには聞こえたのかは、分からないな。

松井さんは逃がってしまったちょうを捕まえようとしたと思うよ。どうして声が聞こえたのだろう。



本文に着目していますね。物語全体の行動や会話から、松井さんの気持ちを考えることができますか。



松井さんの行動や会話を、一の場面からはまだ見付けられていないな。

学級の問いを解決するために、行動や会話から松井さんの気持ちを考えるのだったね。



今日の学習でも、問いの解決に向けて、物語全体から松井さんの行動や会話を見付けて、松井さんの気持ちを考えていきましょう。【視点を明確にする働き掛け】

くなぜ、松井さんには「よかったね。」「よかったよ。」という声が聞こえたのかな>

【ノートの一部】

松井さんの行動や会話
・あわててぼうしをふり
回しました。
・「はあ、わざわざこ
に…」
・ため息をついている
・「この子は、どんなにが
つかりするだろう」
・かたをすばめてつつ立
っていた

気持ち
・しまった。ちようをつか
まえた。
・さっきのちようは大事
なちようだったんだな。
・大事なちようをにがし
てしまった。どうしよう。
・たけおくんが悪いこと
をしたな

読んで考えたことをノートに整理している



「あわててぼうしをふり回しました」の後の行動や会話を見付けたよ。



松井さんは「はあ」と言っているから、ここで初めて、さっきのちようは大事なちようだったということに気付いたんだと思うな。



「かたをすばめてつつ立っていた松井さん」が、どんな気持ちなのかが分からないな。困ったな。



「かたをすばめてつつ立っていた」という行動に着目はできているな。様子が捉えられないのかな。それとも気持ちが想像できないのかな。

「かたをすばめてつつ立っていた」とは、どんな様子かな。二の場面のコーナーに行ってみると、松井さんの気持ちが想像できるかもしれないよ。【動作化や対話を促す働き掛け】

必要に応じて物語の場面に合わせたコーナーに行き、動作化や対話をしながら、学習課題について考えている

三
やなぎの下



「かたをすばめてつつ立っていた」という様子をやってみると、しょんぼりして、申し訳ないことをしてしまったな…と、落ち込んでいる感じがしたよ。

四
車の中



でも、その後、松井さんは急いで車に戻って夏みかんを取り出したんだね。一の場面のコーナーの夏みかんを急いで取りに行ってみると、思いついたことを早くやりたいという気持ちが想像できたよ。

夏みかんに気付いたのですね。ところで、本文には「あの夏みかん」と書いてありますよ。「あの」はどのような言葉でしたか。【指示語に着目するための発問】

※指示する語句の役割については、R4「基礎学力調査」分析・考察 - 事例1参照

「あの」はこそあど言葉で、3年生のときに学習したね。



「あの」は、遠い物事を指すこそあど言葉だよ。



では、「あの夏みかん」とは、どんな夏みかんのことですか。【指示語が指すものを問う働き掛け】

一の場面に出てきた、車に乗せてきた夏みかんだね。



車に乗ったお客さんが気付くくらい、いいにおいがする夏みかんだよ。

いなかのおふくろが速達で送ってくれた、もぎたての夏みかんで、「あまりうれしかった」から、すごく大切な夏みかんだよね。



その中でも、一番大きい夏みかんだから、特に大切に思っていると思うよ。



松井さんにとって、大切な夏みかんなのですね。「あの」に着目して、指している物が何かを考えることで、松井さんの気持ちまで考えることができましたね。【読む場面において、指示語の役割について理解を深める働き掛け】



そんな大切な夏みかんを、松井さんはどうしたのですか。【読みを深めるための発問】

大切な夏みかんなのに、松井さんは、白いぼうしの中に入れてあげたよ。それだけ、男の子に悪いことをしたと思ったのではないかな。



夏みかんにぼうしをかぶせて、飛ばないように、石でつばをおさえたところを実際にやってみたよ。ぼうしが飛んだら、男の子が悲しむと思ったのかな。

三
車の中
女の子

今まで一の場面からは行動や会話を見付けられていなかったけれど、「あの」という言葉に着目したことで、一の場面とつなげて、松井さんの気持ちを考えることができたよ。

四
車の中
団地の前



「あの」のような、こそあど言葉が指しているものが何かを考えると、松井さんの気持ちを考えることにつながることもあるんだね。問いを解決するために、こそあど言葉にも着目しながら、三の場面や四の場面からも、もっと松井さんの行動や会話を見付けて、松井さんの気持ちを考えたいな。

指示する語句の役割については、第3学年で指導をするが、当該学年での指導にとどまらず、機会を捉えて繰り返し指導することが大切である。本事例で取り上げた「白いぼうし」には、単元の指導事項に「知識及び技能」(1)力は取り上げられていないが、日常的な指導の必要性を考え、「読むこと」の単元における、指示する語句の取り上げ方を改善事例として示している。

イ 事例2

読む目的を明確にし、書き手の考えと、その理由や事例との関係を正確に捉える学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
二1	読むこと	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。	思考・判断・表現

二1 【文章】を読んだ東さんは、この文章が-----の部分で、大きく三つのまとまりに分かれていることに気づきました。②・③・④・⑤段落のまとまりは、どのような役わりをしていますか。次のア～ウから一つえらびましょう。

ア 話題について、たしかめたことをせつめいしている。

イ せつめいした内容を受けて、全体をまとめている。

ウ これからせつめいする話題について問いかけている。

正答例	誤答例	
ア	イ	
正答率	誤答率	無解答率
41.7%	55.9%	2.4%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる」であり、正答率は41.7%と不十分である。要因としては、文章全体の構造と内容を捉える際、「始め-中-終わり」の「中」のまとまりにどのような理由や事例が書かれているのかを捉える指導にとどまり、考えとその理由や事例との関係を捉える指導にまで至っていないことが考えられる。

指導に当たっては、文章全体の内容を正確に把握するという読む目的を明確にするために、児童一人一人が興味や課題をもつことができるような手立てを考えることが必要である。その上で、書き手の考えがどのような事例によって具体化されているのかを、叙述を基に正確に捉え、「始め-中-終わり」の「中」だけでなく、文章全体の内容を把握することが必要である。その際、教師は、児童が既習事項を想起できるような学習環境を整えておくことで、身に付けた資質・能力を活用して主体的に課題を解決できるようにすることが大切である。

③ 改善事例 第3学年「文様」「こまを楽しむ」 光村図書三年上

1 指導のねらい

- ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 (知識及び技能(2)ア)

◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 (読むこと(1)ア)

- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。 (読むこと(1)ウ)

2 具体例

言語活動：事物を解説した文章を読み、分かったことや考えたことを説明しよう

単元計画	第一次	1	・「文様」と「こまを楽しむ」を読んで、一人一人が興味や疑問をもつ。 ・一番遊んでみたいこまとその理由について伝え合うという学習の見通しをもつ。
	第二次	2 5	・「文様」を読んで構造を把握し、「初め」と「終わり」の内容が「中」の事例によって具体化されていることを、叙述を基に捉える。 ・「こまを楽しむ」を読んで構造を把握し、「初め」と「終わり」の内容が「中」の事例によって具体化されていることを、叙述を基に捉える。
	第三次	6 7	・くわしく読み、いちばん遊んでみたいこまとその理由について考える。 ・一番遊んでみたいこまについて伝え合う。

第一次 1時：「文様」と「こまを楽しむ」を読み、一人一人が興味や課題、学習の見通しをもつ。

●教材文への興味を引き出す働き掛け

- ・「文様」と「こまを楽しむ」の共通点を探しながら読み、板書で整理する。

●学習の見通しをもつための働き掛け

- ・「文様」に込められた願いや、「こま」を楽しむための工夫を読むという視点を明確にし、単元の最後には一番遊んでみたいこまについて伝えるという、見通しを児童一人一人がもてるようにする。



どんな文様にどんな願い？
どんなこまにどんな楽しむためのくふう？
ていねいに読んで、一番遊んでみたいこまについて伝え合おう

こま	文様
人々は、このつくりにくいうをくわえ、回る様子や回し方でさまざまな楽しみ方のできるこまをたくさん生み出してきた	人々のくらしから生まれたさまざまなねがいがこめられている
長い間、広く親しまれるうちに、さまざまなくふうがつまかさねられてきた	

第二次 5時：「こまを楽しむ」を読み、「初め」と「終わり」が「中」の事例によって具体化されていることを捉える。 【(1) ア 構造と内容の把握（説明的な文章）の指導場面】

前時までに、それぞれのこまと、楽しみ方について表に整理してきている



つくりは同じなのに、昔の人は、様々な楽しみ方ができるこまを、工夫して生み出してきたのでしたね。どんな工夫があるのでしょうか。【読む目的意識を高める働き掛け】

くこまを楽しむために、どんなくふうがくわえられたのかな>

生活科のおもちゃ作りでは、作るときの工夫と遊ぶときの工夫があったよね。こまの工夫も同じなのかな。



「こまの工夫」と「回し方の工夫」で表をまとめるんだね。

前時までに整理した表の続きである、「工夫」の部分をもとめている

●【表をまとめることにつまずいている児童への支援】

3	2	段落
色が変わりこま	色が変わりこま	こま
回っている時の色	回っている時の色	楽しみ方
回っている時の色	回っている時の色	こまの工夫
回っている時の色	回っている時の色	回し方の工夫



色が変わりこまは「こまの工夫」と「回し方の工夫」の、どちらも見付けられたよ。でも、他のこまの工夫を見付けるのは難しいな。



2段落に書いてある、色が変わりこまの工夫は見付けられたのですね。「文様」で学習した説明の順序を手掛かりにして考えてみてはどうですか。掲示や端末の中での板書写真で確認することができますよ。【既習を想起するための支援】

「文様」は三つの文様が、「名前、図柄の説明、言い伝え、願い」と、全て同じ順序で説明されていたね。2段落の説明の順序を手掛かりにすると、他のこまの工夫を見付けることができるかもしれないな。やってみよう。

掲示や端末を活用した既習の蓄積



●【まとめた表を基に、「始め-中-終わり」の構造を捉えるための手立て】

終わり	4	3	2	段落	はじめ
人々は、同じつくりにくいうをくわえ、回る様子や回し方でさまざまな楽しみ方のできるこまをたくさん生み出してきたのだ。	さか立ちこま	鳴りこま	色が変わりこま	こま	長い間、広く親しまれるうちに、こまには、さまざまなくふうがつまかさねられてきた。そうして、たくさん生み出されてきた。
	どちやうから回す方がかわり、その動きを楽しくする工夫	音を回している時のように、回す音がきこえる工夫	回っている時の色が変わる工夫	楽しみ方	
	どちやうから回す方がかわり、その動きを楽しくする工夫	音を回している時のように、回す音がきこえる工夫	回っている時の色が変わる工夫	こまの工夫	
	どちやうから回す方がかわり、その動きを楽しくする工夫	音を回している時のように、回す音がきこえる工夫	回っている時の色が変わる工夫	回し方の工夫	



全てのこまについて、「こまの工夫」と「回し方の工夫」を見付けることができたよ。



「こまの工夫」と「回し方の工夫」は、楽しみ方とつながっていますか。

色が変わりこまは、表面に模様があつて、回っている時の色が変わることで、楽しめるんだね。

対話コーナー

ひねって回すと、色が混ざり合って違う色に変わるから、楽しめるね。速さによって色が変わるよ。



写真 本文



こまや回し方の工夫が、楽しみ方につながっていましたね。どうして、こまの「工夫」と「楽しみ方」を説明しているのでしょうか。【「中」を「始め」や「終わり」とつなげるための発問】

「始め」に、こまには様々な工夫が積み重ねられてきたと書いてあるから、「中」のこまの説明とつながるんだね。



「終わり」に、工夫して様々な楽しみ方ができるこまを生み出したと書いてあったね。「中」の説明とつながるよ。6種類もこまの説明をしているから、「たくさん生み出した」にもつながるな。



小学校第4学年 算数

県平均正答率	学校正答率
59.8%	%

(1) 全体的な傾向

令和8年度の平均正答率は59.8%で、到達状況は不十分である。領域別では、「数と計算」領域は、7年度より7.1ポイント下回っており、到達状況は十分とはいえない。「図形」領域、「測定」領域および「データの活用」領域は、到達状況は不十分であるが、「データの活用」領域は、7年度より15.0ポイント上回っており、改善が図られている。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【数と計算】 (県平均正答率：64.3%) (学校正答率： %)

◎：繰り上がりのある3位数の加法計算をすること〔1(1)〕

設問1(1)の正答率については、91.8%であり、良好である。今後も、児童の学習状況を見ながら、反復による学習の機会を適宜設けて指導を行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1 (1)	繰り上がりのある加法計算	91.8%	%
(県) R5～R7：1(1)			

○：十、百の位からの繰り下がりのある減法計算をすること〔1(2)〕

設問1(2)の正答率については、81.9%であり、概ね良好である。今後も、児童の学習状況を見ながら、反復による学習の機会を適宜設けることに加え、計算の結果の見積りをしたり、計算の確かめをしたりできるような指導を行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1 (2)	十、百の位からの繰り下がりのある減法計算	81.9%	%
(県) H20～R7：1(2)			

▼：乗法の意味を理解すること〔2(1)〕

設問2(1)については、p.14 参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (1)	乗法の意味	54.4%	%
(県) R6、R7：2(1) H31：2(4)			

問題文の言葉から形式的に演算を決定するのではなく、問題場面と図、図と式を関連付けて数量の関係を捉えることができるような学習活動を充実させること

【図形】 (県平均正答率：55.9%) (学校正答率： %)

○：正三角形の定義を理解すること〔3(2)〕

設問3(2)の正答率については、88.3%であり、概ね良好である。今後も、児童が図形を構成したり弁別したりする数学的活動を充実させることで、帰納的に意味や性質について理解することができるような指導を行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (2)	正三角形の定義	88.3%	%
(県) H27：6(2)			

▼：円の半径と三角形の等しい辺の関係を理解すること〔3(1)〕

設問3(1)の正答率については、33.1%であり、不十分である。

指導に当たっては、二等辺三角形の作図を行う際、円と二等辺三角形を関連付け、図形を構成する要素の関係に着目することができるような指導を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (1)	円の中心と半径	33.1%	%
(県) R6：事例1			
(県) R6、7：4(1) H26：7			

【測定】

(県平均正答率：58.4%) (学校正答率： %)

○：時刻を正確に読み取ること〔6(1)〕

設問 6(1)の正答率については、87.3%であり、概ね良好である。今後も、短針と長針の位置を基に、それぞれの針が示す数と時刻を表す数との対応を理解し、時刻を読むことが

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6 (1)	時刻の読み取り	87.3%	%

(県) R 3 : 8(1) H31 : 7(1)

できるような指導を日常的に行うことが大切である。また、時刻と時間の読みを基に、日常生活における時間の使い方についての計画を立てたり、生活時間の目安をつくったりするなど、日常生活の場面で生かすことができるような学習活動を充実させることが大切である。

▼：長さの単位の意味について理解すること〔5〕

設問 5 については、p.16 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	長さの単位と測定	14.4%	%

(県) H29 : 4(4) H28 : 3(3) H27 : 5(1)

計算によって求めた結果を振り返り、日常生活の問題場面に照らし合わせて妥当かどうかを判断し、結論を得ることができるような活動を充実させること

【データの活用】

(県平均正答率：55.4%) (学校正答率： %)

○：棒グラフを読み取ること〔9(1)〕

設問 9(1)の正答率については、83.8%であり、概ね良好である。今後も、数量の大小や差を読むことに加えて、最大値や最小値を捉えたり、項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴などを読み取ったりすることができるような指導を行うことが大切である。また、目盛りの読み方、付け方については、ものさしを用いた測定の仕方や数直線の日盛りの付け方の学習とも関連させながら、読んだりかいたりできるような学習活動を充実させることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
9 (1)	棒グラフの読み取り	83.8%	%

(県) R 5 : 事例 2

(県) R 6 : 8(1) R 6 : 5(2) R 5 : 3(2)

▼：簡単な二次元表の数値から読み取ったことを表現すること〔4(2)〕

設問 4(2)については、39.3%であり、不十分である。要因としては、表やグラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、表のどの部分から、あるいはグラフのどの部分からそのように考えたのかを、正しく表現することができるような指導が不十分であると考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4 (2)	簡単な二次元表の数値の意味【事実】	39.3%	%

(県) R 6、7 : 5(2) R 5 : 3(2)

指導に当たっては、表やグラフの特徴や傾向を捉えたり、考察したりする際には、同じところや似ているところ、少し違うところや大きく違うところなどを見いだし、表現できるようにするとともに、他者と伝え合うことで様々な考えがあることに気付くことができるような学習活動を充実させることが必要である。

指導改善のポイント

□問題場面と図、図と式を関連付けて数量の関係を捉えることができるような学習活動を充実すること
(→ 事例 1)

□日常生活の問題場面に照らし合わせて妥当かどうか判断し、結論を得る学習活動を充実すること
(→ 事例 2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 1・3・5

ア 事例1

問題場面と図、図と式を関連付けて数量の関係を捉えることができるような学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
②(1)	数と計算	乗法の意味を理解している。	知識・技能

② 次の問いに答えましょう。

(1) 答えが 18×6 の式でもとめられる問題を、次のア～エから1つ選びましょう。

ア おり紙が18まいあります。

6まいつかうと、のこりのおり紙は何まいになりますか。

イ 18このボールがあります。

6つのかごに同じ数ずつ入れると、1つのかごにボールは何こ入りますか。

ウ ビー玉を1人に18こずつ分けます。

6人に分けるには、何こいりますか。

エ 18cmの長さのリボンがあります。

6cmずつに切ると、何本になりますか。

正答	誤答例	
ウ	イ、エ	
正答率	誤答率	無解答率
54.4%	44.8%	0.8%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは「乗法の意味を理解している」であり、正答率は54.4%と不十分である。誤答については、イ、エを選択しているものが多い。要因としては、アは「のこり」という言葉から乗法ではなく減法と、正答であるウは「分けます」という言葉から乗法でなく誤って除法と判断し、消去法でイ、エを乗法と判断している可能性がある。つまり、問題文から立式する際、「分ける」「同じ数ずつ」等、問題文の表現のみを根拠とし、加減乗除の判断を行っていることが考えられる。数量の関係がつかみにくい問題の解決において、問題場面を図に表し、数量の関係を適切に捉え、式に表すことができるようにする指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、例えば、本設問のように、数量の関係がつかみにくい問題の解決において、図を用いて、数量の関係を整理する活動を充実させることが考えられる。その際、問題を読み、「『多くなる』と書いてあるから加法」、「『少なくなる』と書いてあるから減法」、「『倍』と書いてあるから乗法」、「『分ける』と書いてあるから除法」といったように言葉のみで判断して立式するのではなく、問題場面に沿って図に表すことで問題の構造がつかみやすくなったり、正しい計算を見いだしやすくなったりすることを確認し、図という数学的な表現のよさに気付くことができるような指導をすることが大切である。その際、正答（○）だけでなく誤った考え（△・×）や分からない（？）も取り上げ、多様な考えを比較検討する学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第3学年「どんな計算になるのかな？（加減乗除の演算の判断）」

1 指導のねらい

図を用いて問題場面をつかみ、正しく数量の関係を捉えて立式することができる。

2 具体例【図に表す過程を通して、問題場面の数量の関係を捉える活動】

どんな計算になるのかを考えて、問題を解きましょう。

①画用紙を1つのはんに27まいずつ分けます。9つのはんに分けるには、何まいいりますか。

②27枚の画用紙があります。9つのはんに同じ数ずつ分けると、1つのはんには何まい分けることができますか。

どちらの問題も「分ける」という言葉があるからわり算だと思います。

どちらもわり算になるのかな。問題文を読んだだけでは、はっきりしないな。

わり算と考えてもよいのかどうかを、はっきりさせるにはどうすればよいですか。

くどのような式になるのかをはっきりさせるには？>

図をかいて考えると、はっきりすると思います。

テープ図をかいて説明できます。

【図に表す過程を通して、問題場面の数量の関係を捉える】

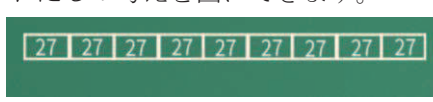
①の問題をテープ図で表すとどのようになりますか。27枚はどこなのかも表してみましょう。

ぼくの考えを図にしたら、こうなります。



だから、式は $27 \div 9$ です。

わたしの考えを図にできます。



だから、式は 27×9 だと思います。

どちらの図が正しいのかな。どちらも27まいを表しているけど・・・。

★ヒントカード★

1つのはんに まいずつ画用紙を分けると、全部で まいひつようになります。

それぞれの図から、1つの班に分ける数と全部の数を考えてみると、どうなりますか。

1つのはんに3まいずつ分けると、全部で27まい？あれ？①の問題は「1つのはんに27まい」だから、問題と図が合っていないぞ。27まいが9つだからかけ算だ。

私の図だと、27まいずつ9つのはんに分けていて、 27×9 なので、全部で243まいひつようです。

では、②の問題をテープ図で表すとどのようになりますか。

②は、全部で27枚だから、この図になるよ。
だから、式は $27 \div 9$ で、1つのはんに3まいずつ分けることができるね。



どうすれば、式をはっきりさせることができましたか。

図でかいてみると何算になるのが分かりやすかったね。

図をかいてから、「全部の数」と「1つのはんの数」を考えると、式もはっきりしたよ。

最初はわり算だと思ったけれど、図に表すと、かけ算だと分かったよ。

最初は、「分ける」という言葉を見て、わり算だと思ったけれど、図を基に考え直してよかったな。



「配る」「分ける」といった問題文の表現だけで演算を決定するのではなく、図を基にして数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが大切です。分かっていることから図に表し、数や図をかき加えていくことが、問題場面や数量の関係を捉える力につながります。

【第2学年】「たし算とひき算」
問題の場면을数量の関係をテープ図で表して、求めるのが「全体」なのか「部分」なのかを考える学習活動

【第4学年】「倍の見方」
テープ図や数直線の図に表して、それを基に立式の理由を説明する学習活動

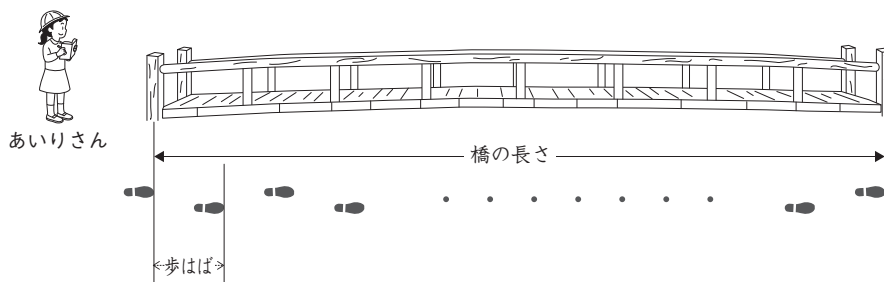
イ 事例2

日常生活の問題場面に照らし合わせて妥当かどうか判断し、結論を得る学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
⑤	測定	長さの単位の意味について理解している。	知識・技能

- ⑤ 東小学校の3年生は、自分たちの町について調べています。あいりさんは、学校の近くにある橋の長さをはかろうと思い、下のように同じ歩はばで歩き続けると、ちょうど20歩でした。あいりさんの歩はばを60cmとします。橋の長さは、およそ何mですか。答えを書きましょう。



正答	誤答例	
12 m	・ 1200 m ・ 120 m	
正答率	誤答率	無解答率
14.4%	80.9%	4.7%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「長さの単位の意味について理解している」であり、正答率は14.4%と不十分である。誤答については、計算結果を単位換算せずに、そのまま解答しているものや、単位換算を適切に行うことができているものも多く見られた。

要因としては、日常生活の問題を計算で解決したときに、その数をそのまま問題の答えとするのではなく、問題場面に照らし合わせて妥当かどうかを判断し、結論を得ることができるような指導が十分ではなかったことが考えられる。また、1200cmといった長さについて、児童の日常生活や学校生活の場面にある長さ結び付け、実感的に捉えたり、測定して得られた数値を適切な単位を選択して表現したりすることができるような指導が十分ではなかったことも考えられる。

指導に当たっては、計算して得られた数の適切な単位は何かを、問題場面に照らし合わせたり、既習や経験を基にしたりしながら考え、妥当かどうかを判断するような学習活動を充実させることが必要である。このような活動を繰り返すことで、得られた結果を常に振り返り、妥当性を吟味しようとする態度が育成されることが期待できる。また、長さや重さ、かさについて学習する際には、量の大きさについての感覚が豊かになるように、身の回りの量を手掛かりにおよその見当を付けて測定していく学習活動を充実させていくことも必要である。例えば、通学路や学校の周りの長さなど、日常生活にある長さを思い起こし、1 km になる長さを調べたり、運動場のトラックを実際に5周歩いてみたりすることで実感的に捉えることができるような学習活動を充実させることなどが考えられる。

③ 改善事例 第3学年「長さ」

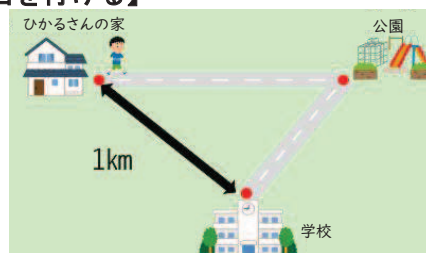
1 指導のねらい

身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすることができる。

2 具体例 【身の回りにある量や経験を基にして、およその見当を付ける】

前時までに1 kmは1 0 0 0 mであること、長さも単位を揃えたり、同じ単位同士を足したり、引いたりして計算できることを学んでいる。

ひかるさんの家から公園の前を通って学校まで歩いて行くときの道のりは何kmですか。



ひかるさんの家から学校までの距離は1 kmです。ひかるさんの家から公園の前を通って学校まで歩いて行くときの道のりはどれくらいだと思いますか。
(問題場面の長さはすべて示さず、隠しておく)



児童が身の回りにある量や経験を手掛かりにおよその見当を付けることを促すことができるよう、問題文や最初に提示する図には最初からすべての数値を示さず、一部の数値のみを示すなどの工夫をすることが大切です。



「歩いて行く」と書いてあるから2 kmくらいかな。

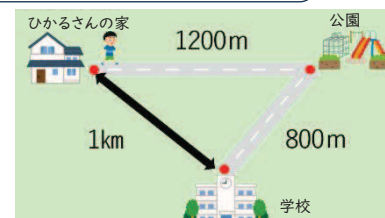
ひかるさんの家から学校までの距離が1 kmなら、道のりは3 kmくらいかな。



ひかるさんの家から公園までは1 2 0 0 mです。公園から学校までは8 0 0 mです。ひかるさんの家から学校までの道のりは何kmですか？



道のりは2 0 0 0 kmかな。



1 2 0 0 + 8 0 0 の計算で求めた2 0 0 0 は、2 0 0 0 mを表しています。
1 0 0 0 mは1 kmなので、2 0 0 0 mは2 km。だから答えは2 kmではないかな。



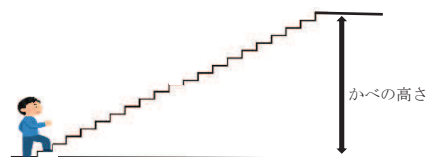
図を見ると、ひかるさんの家から学校までの距離が1 kmだから道のりが2 0 0 0 kmだと遠すぎるね。単位に気を付けることが大切だな。

計算して求めた数の適切な単位は何なのかを、これまでの経験をいかして「本当に正しいのかな？」と考えてみるのが大切なのですね。



【計算結果と単位に着目して答えの妥当性を判断する】

ひかるさんの学校の前には階段があります。この階段の横のかべの高さを知りたいので、階段を使って調べます。
この階段は、1段の高さは15 cmで、全部で20段あります。
この階段の横のかべの高さは何mですか。



この問題を「 $15 \times 20 = 300$ 答え300 m」と考えてしまった友達に、どんな言葉で教えてあげるとよいですか？



「単位は正しいのかな？」と伝えます。

「100 cmが1 mだから、300 cmは3 m。答えは3 mだよ。」と教えてあげます。



「 $15 \times 20 = 300$ の300は300 mではなくて、300 cmを表しているんだよ。」と教えてあげます。

「300 mだったら東京タワーと同じくらいの高さになってしまうよ。」と伝えます。



どんなことに気を付けて答えを求めることが大切だと思いましたか。



答えの単位をたしかめて、それに合わせて単位を直すことが大切だと思いました。

計算の結果がどんな長さを表しているのかを考えることが大切だと思います。



求めた数量が何を表しているのかを、日常生活や既習の知識と結び付けながら検討し、結論を得るような学習活動を充実させることが大切です。

小学校 第6学年
「社会」「理科」「英語」

小学校第6学年 社会

県平均正答率	学校正答率
59.2%	%

(1) 全体的な傾向

令和8年度の平均正答率は59.2%で、到達状況は不十分である。石川県全体の地形や方位の理解、地域の様子の移り変わりを地図から読み取ることについては、概ね良好であるが、グラフから情報を適切に読み取ることや、複数の資料を基に考察し適切に表現することについては、依然として課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地域学習】 (県平均正答率：64.5%) (学校正答率： %)

○：石川県全体の地形や方位を理解すること〔1(1)①②〕

設問1(1)の正答率については、89.1%であり、概ね良好である。今後も、自分たちの県の地理的環境の概要について地図帳を活用し、県や主な市町の位置、県全体の地形などの特色を理解できるように指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1)① 石川県の市の位置（方位）	84.4%	%
	(1)② 石川県の自然（能登半島）	93.8%	%

(県) R 5：1(2)

○：地域の様子の移り変わりについて、地図から読み取ること〔3(2)〕

設問3(2)の正答率については、89.0%であり、概ね良好である。今後も、地図帳や各種の具体的資料を見比べながら、時期や時間の経過に沿って調べたことを白地図や年表などにまとめる技能を身に付けることができるように指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3	(2) 地域の様子の移り変わり	89.0%	%

◇：地図帳の索引から位置を読み取ること〔1(5)〕

設問1(5)の正答率については、70.8%であり、基準に到達している。今後も、地図帳の索引や凡例などを活用して必要な情報を読み取ることができるように指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(5) 地図帳の活用	70.8%	%

(県) R 7：事例1

(県) R 7：1(4)

▼：主な公共施設について理解すること〔3(1)〕

設問3(1)については、p.22 参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3	(1) 公共施設の種類	11.1%	%

(県) R 5：3(3)

年間指導計画を見通し、複数の単元での学習を通して、公共施設の概念的理解を段階的に深めていく学習活動を充実させること

【産業と国土】

(県平均正答率：54.7%) (学校正答率： %)

○：赤道の位置について理解すること〔2(3)①〕

設問2(3)①の正答率については、87.1%であり、概ね良好である。今後も、地図帳や地球儀を用いて、方位、緯度や経度などによる位置を説明する活動を意図的に設定し、赤道や緯線、経線などの基本的な知識の定着を図ることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (3)①	赤道の位置	87.1%	%

(県) R 4：事例1

(県) R 5：2(1)①

◇：気候の特色について、資料から必要な情報を読み取ること〔6(1)B〕

設問6(1)Bの正答率については、73.1%であり、基準に到達している。今後も、雨温図や地図などの資料を活用する学習活動を意図的に設定し、気温や降水量などの特徴に着目しながら、地域の気候の特色について必要な情報を読み取ることができるように指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6 (1)B	沖縄県の気温と降水量	73.1%	%

▼：魚の水揚げ量と価格の変化を表したグラフから、情報を適切に読み取ること〔5(2)〕

設問5(2)については、p.24 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5 (2)	水産業に関わる情報の読み取り	32.7%	%

- ・資料に示された情報を整理し、目的に応じた情報を適切に読み取る学習活動を充実させること
- ・資料から読み取った情報を関連付けながら社会的事象について考えたり、自分の考えを表現したりする学習活動を充実させること

▼：持続可能な漁業を目指し水産資源を保護していることについて、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔5(4)C D〕

設問5(4)の正答率については、20.5%であり、不十分である。要因としては、複数の資料から読み取った情報を基に、その意味について考察する学習活動が十分ではなかったと考えられる。

指導に当たっては、複数の資料から必要な情報を整理し、それぞれの資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりしながら、社会的事象について考察する学習活動を充実させることが必要である。また、考察したことについて、根拠を基に説明したり表現したりする学習活動を充実させることも必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(4)C 水産業に関わる人々の工夫（漁期の設定）	21.1%	%
	(4)D 水産業に関わる人々の工夫（水産資源の保護）	19.8%	%

(県) R 5：事例2

(県) R 6：5(4)②C③E

指導改善のポイント

- 公共施設の目的や利用する人々などに着目し、わたしたちのまちにある公共施設について理解する学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 資料から目的に応じた情報を適切に読み取り、社会的事象について考えたり表現したりする学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+ 1・2

ア 事例1

公共施設の目的や利用する人々などに着目し、わたしたちのまちにある公共施設について理解する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
③(1)	地域学習	主な公共施設について理解している。	知識・技能

③ [年表]

年代	およそ70年前 (昭和30年ごろ)	およそ40年前 (昭和60年ごろ)	今 (令和8年)
地図			
建物	・学校、図書館、消防署、 神社、工場がある	・スーパーマーケットが できる	・病院ができる ・工場が増える
道具	・電気せんたくき ・電気がま ・ガスストーブ	・二そう式せんたくき ・自動すいはんき ・エアコン	・ドラム式せんたくき ・いろいろなたき方がで きるすいはんき ・電気をむだに使わない エアコン

(1) 年表の地図の中に見られる建物の中で、公共しせつにあてはまるものを、次のア～エから1つ選びましょう。

ア 消防署 イ 神社 ウ スーパーマーケット エ 工場

正答例	誤答例	
ア	ウ	
正答率 11.1%	誤答率 87.2%	無解答率 1.7%

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「主な公共施設について理解している」であり、正答率は11.1%と不十分である。誤答としては、「スーパーマーケット」を選択する解答が多く見られた。要因としては、公共施設の概念を正確に捉え、公共施設に該当する建物や場所と、そうでないものを比較・分類する学習活動や地図記号を使って、身近な地域の様子を地図に表したり、地図から市の様子を読み取ったりする学習活動が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、公共施設の定義を単なる知識として扱うのではなく、「なぜ、その建物や場所が公共施設に該当するのか」という判断基準について、児童自らが検討し、複数の単元での学習を通して、公共施設の概念的理解を深めていく学習活動を充実させることが必要である。その際、学習指導要領の内容などを確認した上で年間指導計画を見通し、各単元で扱う具体例を基に、公共施設かどうかを多角的に判断する学習活動を継続的に取り入れていくことが必要である。また、地図記号を使って、身近な地域の様子について白地図にまとめて表現したり、地図から市の様子を読み取ったりする学習活動を取り入れることも大切である。

③ 改善事例 第3学年

「身近な地域や市区町村の様子」「地域の安全を守る働き」「市の様子の移り変わり」

1 指導のねらい

公共施設の目的や利用する人々などに着目し、わたしたちのまちにある公共施設について理解することができる。

2 具体例

ポイント①：公共施設について、複数の単元にわたって段階的に指導する機会を捉える。



若手教師

3年生の社会科で、年間を通して「公共施設」をどう扱うかを考えました。各単元に出てくる主な建物や場所を基に、「公共施設」について段階的に学習していこうと思っています。

【「公共施設」について段階的に学習する年間指導計画の例】

〔視点を広げる〕

【1学期】

単元名「身近な地域や市区町村の様子」

主な公共施設

学校、公園、市役所、図書館など

主な学習活動

- ・地図などの資料を使った観察・調査やまち探検を通して、「みんなのためにつくられた建物や場所」を発見し、発見した公共施設等を、主な地図記号を用いて白地図にまとめる。

〔仕組みを知る〕

【2学期】

単元名「地域の安全を守る働き」

主な公共施設

消防署、警察署など

主な学習活動

- ・消防署や警察署で「みんなのために働く人」取材する。
- ・消防署や警察署は、私たちの安全なくらしを守る役割を担っていることを知る。

〔概念を深める〕

【3学期】

単元名「市の様子の移り変わり」

主な公共施設

市役所、図書館、学校、博物館など

主な学習活動

- ・公共施設と税金の関わりについて知る。
- ・公共施設とそうでない施設を比較・分類する。
- ・「公共施設」を利用する一人として、自分自身も地域を支える一員であることを自覚する。

「税金」については、6年生で本格的に取り扱う指導内容ですが、3年生のうちに、公共施設が税金で成り立っている事実を捉えておくことは、今後の税金の学習へのスムーズな接続に効果的です。

年間を見通した計画がいいですね。学習を進めることで、子供たちの学びや経験が広がり、「公共施設」の概念を段階的に深めていこうとしているのですね。



ベテラン教師

学習を進めていく上で、子供たちはどのようなことにつまずくと想定していますか。



公共施設について、「みんなのためにつくられた建物や場所」ということのみを指導してしまうと、スーパーマーケットや本屋も公共施設に含めてしまうと思います。

ポイント②：学習指導要領を確認し、指導の内容や方法を検討する。

小学校学習指導要領解説〔社会編〕では、公共施設は、「多くの市民が利用したり、市民のために活動したりしている施設」(p.35 参照)であり、「公共施設の建設や運営には市役所が関わってきたことや、その建設や運営には租税が重要な役割を果たしていることに触れる」(p.47 参照)ことが大切であると書かれています。



学習指導要領を確認することは大切だと分かりました。公共施設の定義の理解や、施設を比較・分類する学習活動に加えて、公共施設の概念について議論する学習活動を取り入れてみます。

ポイント③：具体的な場面について議論する学習活動を取り入れ、概念的理解につなげる。

〈議題例①〉

なぜ、「スーパーマーケット」はみんなのためにつくられた施設なのに、公共施設ではないのだろうか。

〈議題例②〉

みんなが遊ぶことができる「公園」と「テーマパーク」にはどのようなちがいがあのか。



税について、参考になるサイトを紹介します。授業づくりや教材研究に活用してみましょう。



(金沢国税局 HP)



<https://www.nta.go.jp/about/organization/kanazawa/education/index.htm>

イ 事例2

資料から目的に応じた情報を適切に読み取り、社会的事象について考えたり表現したりする学習活動を充実すること

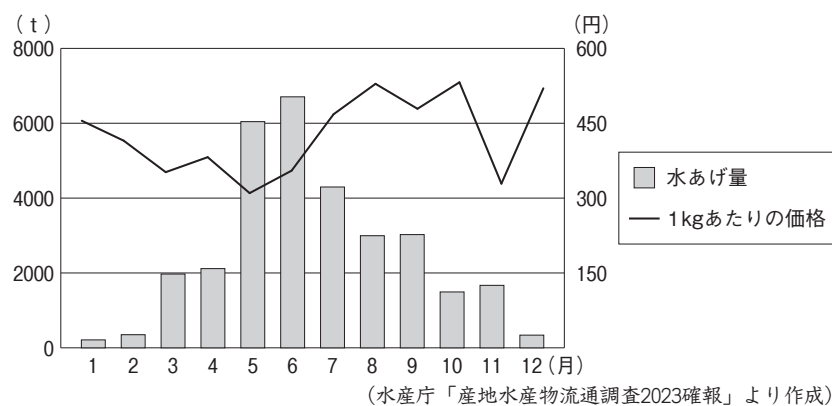
① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
⑤(2)	産業と国土	魚の水揚げ量と価格の変化を表したグラフから、情報を適切に読み取ることができる。	知識・技能

⑤ はるさんのクラスでは、日本の水産業について調べています。次の問いに答えましょう。

(2) はるさんは、月ごとのかつおの水あげ量と1kgあたりの価格を示した資料を見つけました。資料1から読み取れることを、あとのア～エから2つ選びましょう。

[資料1] 月ごとのかつおの水あげ量と1kgあたりの価格



ア 1月の1kgあたりの価格は約450円である。

イ 5月の水あげ量は、4月に比べて約2000t増えている。

ウ 1月から5月にかけて、1kgあたりの価格は下がり続けている。

エ 6月から8月にかけて、水あげ量は減り続けているが、1kgあたりの価格は上がり続けている。

正答例	誤答例	
ア・エ	エ、ア、イ・エ、ア・イ	
正答率	誤答率	無解答率
32.7%	63.0%	4.4%

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「魚の水揚げ量と価格の変化を表したグラフから、情報を適切に読み取ることができる」であり、正答率は32.7%と不十分である。誤答としては、「イとエ」、「アとイ」を選択するなど、資料から必要な情報を適切に読み取ること課題が見られる解答が多かった。また、「エ」や「ア」のみを選択するなど、題意を適切に捉えていない解答も見られた。要因としては、目的に応じた情報を正確に読み取り、適切に表現する学習活動が十分ではなかったと考えられる。

指導に当たっては、まず、目的に応じた情報を適切に読み取る学習活動を充実させることが必要である。さらに、資料から情報を読み取ること自体を目的とするのではなく、読み取った情報を関連付けながら社会的事象について考えたり、読み取った情報を根拠に自分の考えを表現したりする学習活動を充実させることも大切である。

③ 改善事例 第5学年「我が国の水産業」

1 指導のねらい

魚の価格と水揚げ量の変化を表したグラフから必要な情報を目的に応じて読み取り、分かったことを基に魚の価格と水揚げ量の関係について考え、表現することができる。

2 具体例

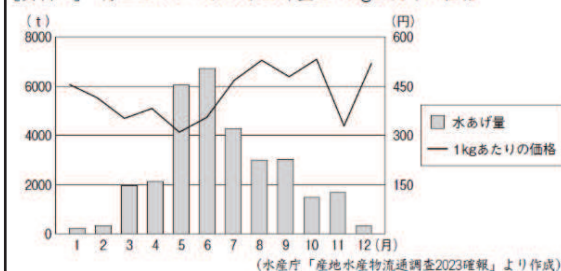
買い物に行ったら、かつおの刺身の値段が、前に買ったときよりも高かったです。なぜだろう。



先日の授業で、児童から「なぜ、かつおの刺身の値段が前に買ったときと違うの？」という疑問が出ました。この疑問を学習問題にして授業をしたいのですが、どのような資料を使ったらよいのでしょうか。



【資料1】 月ごとのかつおの水揚げ量と1kgあたりの価格



ポイント①

視点に沿って資料の情報を整理する。

それなら「月ごとのかつおの水揚げ量と1kgあたりの価格」を示した資料がありますよ。この資料を使うと、「水揚げ量」と「価格」の関係について考えることができますね。



この資料は、棒グラフと折れ線グラフが重なっているのので、児童の中には読み間違える子も出てくることが想定されます。読み取る際に気を付けるとよいことはありますか。



棒グラフと折れ線グラフがそれぞれ何を表しているかを整理することが大切です。その上で、どのような情報が示されているのかを、様々な視点に沿って読み取っていきましょう。



★表題：月ごとのかつおの水揚げ量と1kgあたりの価格

視点	グラフの種類	内容	単位	最大の月/最小の月
	棒グラフ	水揚げ量	t	6月/1月
	折れ線グラフ	1kgあたりの価格	円	10月/5月

棒グラフと折れ線グラフを別々に提示し、それぞれが何を表しているのかを確認した後に重ねて示すことも一つの方法ですね。



同じ資料でも、何を明らかにしたいのかによって着目する情報や読み取る内容は変わりますよ。

<数量を読み取る>

教師：水揚げ量が最も多い月は何月でしょう。そして、水揚げ量が最も多い月の1kgあたりの価格はいくらぐらいでしょう。

児童：水揚げ量が最も多いのは5月で、約6000tです。5月の1kgあたりの価格は、およそ300円です。

→棒グラフや折れ線グラフ、目盛りを基に具体的な数値を読み取る。

<変化を読み取る>

教師：水揚げ量や1kgあたりの価格の変化に着目してみると、何か気付くことはありませんか。

児童：1月から3月にかけて、水揚げ量は増えているのですが、1kgあたりの価格は下がっています。

→月ごとの数量を比較しながら、増加や減少などの変化を読み取る。

ポイント②

資料の特徴を踏まえ、目的に応じて、どの情報に着目して読み取るのかを明確にする。

児童に何を気付かせたいのかによって、読み取る内容が変わるのだな。



数量や変化を読み取ることができるようになると、それぞれの情報を関連付けながら考えることもできますね。

<数量と変化から関係を読み取る>

教師：グラフから読み取った情報から、どのようなことが考えられるでしょうか。

児童：水揚げ量が多い月には、1kgあたりの価格が下がり、水揚げ量の少ない月には1kgあたりの価格が上がっていることから、1kgあたりの価格の変化には、水揚げ量が関係していると考えられます。

→棒グラフと折れ線グラフを関連付けながら、水揚げ量と1kgあたりの価格の関係を読み取る。

水揚げ量が多い(少ない)時期と1kgあたりの価格の高い(安い)時期が相反することに気付くと、「水揚げ量と1kgあたりの価格には、どのような関係があるのだろう」などの疑問が生まれます。



なるほど。多い月と少ない月、高い月と安い月など、資料から読み取った情報を基に、その関係性について考える活動につなげたいです。



資料を正確に読み取ることは大切ですが、読み取ること自体が目的ではありません。目的に応じて情報を読み取り、分かったことを関連付けて考えることが大切です。社会科では、読み取ったことを基に考えたり、自分の言葉で説明したりすることも大切です。

ポイント③

資料から読み取った情報を関連付けながら、社会的事象について考えたり、自分の考えを表現したりする学習につなげる。

小学校第6学年 理科

県平均正答率	学校正答率
64.0%	%

(1) 全体的な傾向

令和8年度の平均正答率は64.0%で、到達状況は十分とはいえない。領域別では、「粒子」を柱とする領域は、平均正答率は58.8%と不十分であり、6年度より0.3ポイント下回っている。「エネルギー」を柱とする領域は、平均正答率は65.4%と不十分であるが、6年度より15.7ポイント上回り、改善が図られている。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【物質・エネルギー（エネルギー）】 (県平均正答率：65.4%) (学校正答率： %)

○：振り子の実験の適切な方法や適切な処理の仕方について理解すること〔4(2)〕

設問4(2)の正答率については、85.9%であり、概ね良好である。今後も、観察・実験の方法について、考えたり説明したりすることができるような指導を行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4 (2)	振り子の実験に関する技能	85.9%	%

▼：電磁石の強さは導線の巻数によって変わることを理解すること〔5(4)〕

設問5(4)については、p.28 参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5 (4)	電磁石の強さとコイルの巻き数の関係	42.4%	%

(県) H29：8(2)

- ・限られた条件の中で、実験の適切な方法について考え、計画する場面を設定すること
- ・既習を想起し、実験の計画の妥当性について考えることができるような問い返しを行うこと

【物質・エネルギー（粒子）】 (県平均正答率：58.8%) (学校正答率： %)

○：物の重さについて、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通すこと〔3(1)予想〕

設問3(1)予想の正答率については、80.8%であり、概ね良好である。今後も自分の予想にとどまらず、他者の予想も含め、それぞれの予想が確かめられた場合に得られる結果の見通しをもつことができるような指導を行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (1) 予想	予想が確かめられた場合に得られる結果の見通し【構想】	80.8%	%

(県) R 5：事例2

(県) R 5、6：2(2)

▼：異なる物質で重さを同じにしたときの体積の違いについて、実験結果を基に、見だし表現すること〔3(3)〕

設問3(3)の正答率については、29.0%であり、不十分である。要因としては、異なる物質の体積と重さとの関係について追究する活動が不十分であることが考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (3)	物の体積と重さとの関係【分析】	29.0%	%

(県) R 6：事例1

(県) R 6：6(3) R 3：1(3)

指導に当たっては、他の学年や他の単元での学習も積み重ねながら、量的・関係的な視点で捉える活動を充実させる必要がある。

【生命・地球（生命）】

(県平均正答率：68.9%) (学校正答率： %)

○：メダカの卵の中の様子が変化する過程を理解すること〔7(2)〕

設問7(2)の正答率については、87.8%であり、概ね良好である。今後も、メダカを飼育することを通して、卵の中の変化を継続的に観察して調べることができるような指導を行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7 (2)	メダカの卵が変化していく順	87.8%	%

(県) R 5 : 5(3)

▼：身近な植物は、暖かい季節、寒い季節などによって成長に違いが見られることを、グラフから読み取り表現すること〔2(2)〕

設問2(2)については、p.30 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (2)	季節による植物の成長の変化についての考察【分析】	50.6%	%

(県) H29 : 5(2)④

- ・実験結果や資料から考察する場面において、着目する視点が明確になるような問い返しを行うこと
- ・他者の考えや表現に触れながら再考し、適切な表現にする場面を設定すること

【生命・地球（地球）】

(県平均正答率：64.2%) (学校正答率： %)

○：方位を調べる器具（方位磁針）の使い方を理解すること〔1(1)〕

設問1(1)の正答率については、80.2%であり、概ね良好である。今後も、太陽や月、星などを観察する際に、方位磁針を用いて方位の確認をしながら、適切に操作することができるような指導を行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1 (1)	方位磁針の使い方	80.2%	%

▼：月は1日のうちでも時刻によって位置が変わることを理解すること〔1(2)〕

設問1(2)の正答率については、50.3%であり、不十分である。要因としては、夜間の観察が難しいため、体験を伴う活動が不足し、月の位置の変化について十分にイメージをもてないことが考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1 (2)	月の位置の変化	50.3%	%

(県) R 3 : 8(1) H28 : 2(2)

指導に当たっては、学校では観察ができない時間帯の月の位置の変化については、映像や模型、コンピュータシミュレーションなどを活用して、捉えることができるようにすることが必要である。

指導改善のポイント

- ☐ 予想や仮説を基に観察・実験の条件を考え、適切な方法を計画する学習活動を充実すること
(→ 事例1)
- ☐ 結果を基に自然の事物・現象のきまりについて考察し、適切に表現する学習活動を充実すること
(→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+ 3

ア 事例1

予想や仮説を基に観察・実験の条件を考え、適切な方法を計画する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
⑤(4)	物質・エネルギー (エネルギー)	電磁石の強さは導線の巻数によって変わること理解している	知識・技能

花子さんは、図2のように、電磁石を使って、クリップをつけた動物キャラクターを持ち上げるおもちゃ②をつくりました。

もっとたくさんの動物キャラクターが、いっしょに持ち上がるようにできたらいいね。

そうね。電磁石を強くしてみようかな。

(4) 花子さんは、電磁石を強くしたいと考えています。図2のおもちゃ②のみを使って、電磁石を強くする方法を書きましょう。

図2 おもちゃ②

正答例	誤答例	
・ 余った導線を使って、コイルのまき数を増やす。 ・ 鉄くぎにまく導線のまき数を増やす。	・ 電池を増やす。 ・ 200回巻に変える。	
正答率（準正答率） 42.4%（2.8%）	誤答率 53.3%	無解答率 4.2%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「電磁石の強さは導線の巻数によって変わること理解している」であり、正答率は42.4%と不十分である。誤答としては、電磁石を強くする方法について、おもちゃ②のみを使って強くする方法を解答するという題意を適切に捉えることができていないものが多くみられた。要因としては、実際の授業では、実験器具の種類や数などの限られた条件の中で実験方法について考えたり、他者と話し合い、適切な実験方法について検討したりする学習活動が十分でないことが考えられる。

指導に当たっては、問題解決の方法を考える場面において、条件制御の考え方を踏まえながら、他者との学び合いや教師の問い返しなどを工夫し、適切な実験方法を計画する学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第5学年「電流がつくる磁力」

1 指導のねらい

予想や仮説を基に、電磁石を強くする方法を確かめるための実験の条件を考え、計画することができる。

2 具体例

前回、電磁石は、コイルに電流が流れている間だけ、磁石の性質をもつことを、学習しましたね。そして、ゴミ処理場では、強力な電磁石が使われていることを知りましたね。

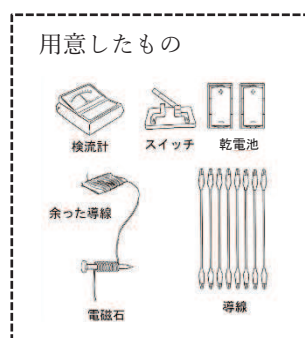
ぼくがつくった電磁石は、クリップが10個ついたけれど、ゴミ処理場の電磁石のように、もっと多くのクリップがつく強力な電磁石をつくりたいな。

< 課題 電磁石を強くするには、どうすればよいのだろうか？ >



ここに用意したものを使って、前回よりも強い電磁石をつくるにはどうしたらよいでしょうか？

【ポイント1】限られた条件の中で、実験の適切な方法について考え、計画する場面を設定する。



乾電池を2つに増やした方が強くなると思うよ。

4年生のとき、モーターは速く回ったから、直列つなががいいと思うよ。

モーターが速く回ったのは、何が変わったからですか？

電流の大きさが変わったからだよ。

他にありますか？

余った導線でコイルの巻き数を増やすといいと思うよ。



では、「導線の巻き数」と「電流の大きさ」を変えることで、電磁石が強くなるのかを調べましょう。

【ポイント2】既習を想起し、実験の計画の妥当性について考えることができるような問い返しを行う。

※条件制御・比較・実証性・再現性・客観性・安全性・測定方法などに気付くことができる問い返しが大切である。



実験方法を計画する時に、大切なことは何でしたか？

植物の学習のときのように「変える条件」と「変えない条件」を区別することです。



「導線の巻き数」について調べるのなら、「変える条件」が「導線の巻き数」で、「変えない条件」は電流の大きさだね。

調べたいことが「変える条件」だったね。

私は、「電流の大きさ」を調べたいから、「変える条件」は「電流の大きさ」だね。



前回の実験では、同じ条件でもクリップの数が班によってちがっていましたね。より正確な結果を出すためには、どうしたらよいですか？

前回は1回だけだったけれど、何回か実験すればよいと思います。



なるほど。その後、算数やふりこの学習のときのように平均を求めるといいね。



電磁石が強くなったかどうかは、何を調べることで分かりますか？

電磁石の強さは、前回と同じように、クリップの数で調べるといいね。

(予想：導線の巻き数が増えると、電磁石は強くなる)

(予想：電流が大きくなると、電磁石は強くなる)

変える条件	変えない条件	つり上げたクリップの数		
導線の巻き数	電流の大きさ	1回目	2回目	3回目
100回	乾電池1個			
200回	(A)			

変える条件	変えない条件	つり上げたクリップの数		
乾電池(電流の大きさ)	導線の巻き数	1回目	2回目	3回目
1個 (A)	100回			
2個直列 (A)				

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ 実験・考察 ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

まとめ 電磁石を強くするには、導線の巻き数を増やしたり、電流を大きくしたりすればよい。



これまでの学びから、なぜ、ゴミ処理場には電磁石が使われているのか、また、電磁石を強くするにはどうすればよいのか考え、説明してみましょう。

※学習後に再び日常生活や社会と関連付け、学習したことを活用して表現することが大切である。

イ 事例2

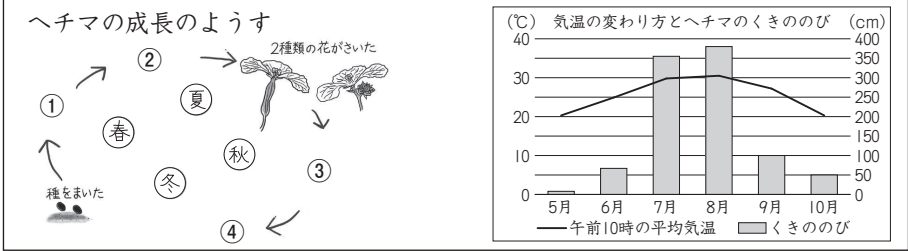
結果を基に自然の事物・現象のきまりについて考察し、適切に表現する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
②(2)	生命・地球 (生命)	身近な植物は、暖かい季節、寒い季節などによって成長に違いが見られることを、グラフから読み取り表現することができる。	思考・判断・表現

② 花子さんは、育てたヘチマの観察記録をもとに、ヘチマの成長についてノートにまとめています。あとの問いに答えましょう。

【花子さんのノート】



(2) 5月から10月の気温の変わり方とヘチマのくきののびについて、【花子さんのノート】のグラフから、どのようなことが分かりますか。「くきののび」という言葉を使って、書きましょう。

正答例	誤答例	
・ 気温が高くなると、くきののびが大きくなり、気温が低くなると、くきののびが小さくなる。 ・ 暑くなると、くきののびが大きくなり、すずしくなると、くきののびが小さくなる。	・ 7、8月はくきののびが大きく、9、10月は小さい。 ・ 気温が低くなると、くきはのびない。	
正答率 (準正答率) 50.6% (44.8%)	誤答率 45.3%	無解答率 4.1%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「身近な植物は、暖かい季節、寒い季節などによって成長に違いが見られることを、グラフから読み取り表現することができる」であり、正答率は50.6%と不十分である。誤答としては、気温の変わり方とくきののびの関係について、問題文やグラフにある言葉を適切に使いながら表現することができていないものが多くみられた。また、気温が高くなるときと気温が低くなるときの両方について書かれている正答が少なかった。要因としては、実際の授業で、気温の変わり方やくきののびなどの着目すべき点が曖昧なまま、適切な言葉で表現する学習活動が不足していることが考えられる。また、実際の観察では、くきの長さが長くなるにつれて測定が難しくなり、特に秋以降の気温が低くなるとくきののびが小さくなることについて実感が伴わないことなどが考えられる。

指導に当たっては、必要に応じて教師から資料を提示し、比較できる十分な観察結果を基に思考できるようにすることが必要である。また、実験結果や資料から考察する場面において、着目する視点を明確にし、他者の考えや表現に触れながら再考し、適切な表現にしていく学習活動を充実させることが大切である。

③ 改善事例 第4学年「季節と生物」

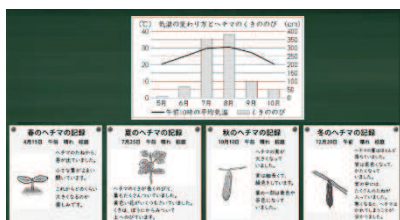
1 指導のねらい

身近な植物は、暖かい季節、寒い季節などによって成長に違いが見られることを、グラフから読み取り適切に表現することができる。

2 具体例



これまで植物や動物の様子を1年間観察してきましたね。今日は、植物の様子が1年間どのように変わってきたのか、ヘチマの記録カードをもとに、振り返って考えましょう。



春は、子葉が出て、夏は、くきがたくさんのびていたね。

秋は、葉がかれ、冬は、実の中に種ができていたね。

そうでしたね。では、気温やヘチマのくきののびの記録や資料から、1年間の気温の変わり方とくきののびの関係を考えていきましょう。

< 課題 1年間の気温の変わり方とくきののびには、どのような関係があるだろうか? >

夏はくきののびがよくて、秋からはのびがよくないね。

気温とくきののびのグラフの変化が似ているね。

5月から8月まではくきがよくのびているね。

今日は、何と何の関係について考えるのですか？

【ポイント1】実験結果や資料から考察する場面において、着目する視点が明確になるような問い返しを行う。

※児童と確認しながら、キーワードを黒板に示すなど、着目する視点を明確にしておくことが大切である。

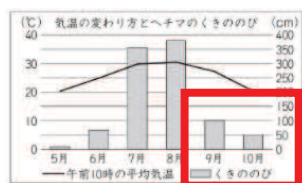
今日は、「気温の変わり方」と「くきののび」の関係について考えます。

そうだったね。夏や8月ということではなく、気温の変わり方についてだね。

暑くなると、くきがよくのびる関係があると言えるね。

今日は、気温が高くなるときについて考えるのですか？今日の課題をもう一度確認しましょう。

1年間の気温の変わり方とくきののびの関係についてだったね。



5月から8月にかけては気温が高くなり、8月から10月にかけては気温が低くなっているから、その2つに分けて考えるといいね。

さっき、気温が高くなるときのことを考えたけれど、このグラフを見ると、気温が低くなると、くきが縮んで、成長しなくなっているね。

このグラフは、くきの長さではなく、くきののびを表しているよ。だから、くきののびが少ししかのびていないだけで、縮んではないよ。

そうか。ということは、気温が低くなると、くきは少ししかのびないと言えるね。

いろいろな表現ができましたね。どのような言葉で表現すると、正確に伝わりますか。他の人の表現を参考にしてみましょう。

【ポイント2】他者の考えや表現に触れながら再考し、適切な表現にする場面を設定する。

※着目する視点を明確にした上で、ICTを活用するなどして、表現の違いに気付くように促すことも考えられる。

時期	気温の変わり方	くきののび
5月→ 8月	高くなる	大きくなる
8月→10月	低くなる	小さくなる

気温の変わり方だから、〇〇さんのように、暑くなるや寒くなるではなく、気温が高くなるや低くなると、表現するとよさそうだな。

〇〇さんのように、くきののびは、大きくなるや小さくなると表現するとよさそうだね。

では、自分の言葉でまとめを書いてみましょう。

※他の人の表現も参考にしながら再考し、自分の言葉で表現する場面を設定することで、表現力が高まる。

まとめ 気温が高くなると、くきののびが大きくなり、気温が低くなると、くきののびが小さくなる。

小学校第6学年 英語

県平均正答率	学校正答率
85.8%	%

(1) 全体的な傾向

令和8年度の平均正答率は85.8%で、到達状況は概ね良好である。領域別では、「聞くこと」の領域と「読むこと」の領域は、概ね良好である。「聞くこと」の領域では、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることは良好であるが、具体的な情報を聞き取ることは十分とはいえない。「書くこと」の領域では、身近で簡単な事柄について、簡単な語句を書き写すことは概ね良好であるが、文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体（小文字）を書くことは十分とはいえない。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと】 (県平均正答率：87.4%) (学校正答率： %)

◎：身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ること〔2〕

設問2の正答率については97.8%であり、良好である。今後も、身近で簡単な事柄について、目的や場面、状況な

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2	(1) 注文した料理の聞き取り	99.3%	%
	(2) 注文した料理の金額の聞き取り	96.4%	%

(県) R 5～7：2

どを設定し、簡単な語句や基本的な表現で話されたことを聞き取る活動を日々の授業で継続的に行うことが大切である。また、話されたことをイラストや写真と結び付けるなどして、聞き取ることができたという達成感を十分味わえるような指導を行うことも大切である。

◎：身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話を聞いて、必要な情報を得ること〔5〕

設問5の正答率については93.4%であり、良好である。今後も、児童の日常生活に関する身近な事柄について、短い話を聞く場面を意図的に設

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(1) 短い会話（文房具セットの中身）を聞いて、必要な情報を得ること	93.3%	%
	(2) 短い会話（消しゴムの形状）を聞いて、必要な情報を得ること	93.6%	%

(県) R 6、7：5

け、何を聞き取ればよいのかを明らかにし、目的意識をもった聞き方ができるように指導することが大切である。

▼：日常生活に関する身近で簡単な事柄(お気に入りの場所)について、具体的な情報を聞き取ること〔4(2)〕

設問4(2)については、p.34参照。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4	(2) 短い会話（その場所が好きな理由）の聞き取り	21.9%	%

(県) R 6：事例1

(県) R 5～7：4(2)

指導に当たっては、次のような点を充実させることが大切である。

- ・聞き取る目的や場面、状況などを明確にした上で、簡単な語句にとどまらず、基本的な表現で話されたことについても、その意味が分かるように指導すること
- ・理解した基本的な表現を、言語活動の中で繰り返し活用することで、表現の定着を図ることができるように指導すること

【読むこと】

(県平均正答率：85.9%) (学校正答率：%)

◎：日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とするものを読んで、自分が必要とする情報を得ること〔8(2)〕

設問8(2)の正答率については、96.0%と良好である。今後、写真や絵などの視覚教材を活用し、児童に示している英語が表す内容と結び付けて理解できるように指導を継続していくことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8 (2)	単語 (science) を読んで意味を理解すること	96.0%	%

◇：日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とするものを推測しながら読んで、自分が必要とする情報を得ること〔9〕

設問9の正答率については、75.3%であり、基準に到達している。今後も、簡単な語句や基本的な表現について、推測しながら読むことができる

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
9	文章 (町のおすすめの場所) を推測しながら読んで、必要な情報を得ること	75.3%	%

(県) R7:9 R6:10

ように、理解を助ける写真や絵などの視覚教材を活用しながら、音声で慣れ親しんだ語句や基本的な表現で書かれた文を読み、その意味を捉える活動を継続していくことが大切である。

【書くこと】

(県平均正答率：82.8%) (学校正答率：%)

◇：相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、簡単な語句を書き写すこと〔10(3)〕

設問10(3)の正答率は77.2%であり、基準に到達している。一方で、語と語の区切りに課題が見られ、空白を入れずに続けて書いてしまう児童も見られる。今後も、語と語の区切りを意識して書き写す活動を継続することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
10 (3)	目的・場面・状況に応じて自分ができることを書き写すこと	77.2%	%

(県) R7:10(3) R6:8(3) R5:9(3)

▽：文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の小文字を書くこと〔7(2)〕

設問7(2)については p.36 参照。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7 (2)	アルファベットの小文字を書くこと(p)	61.1%	%

(県) R6、7:事例2

(県) R6、7:7(2) R5:7(3)

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

- ・音声で基本的な表現に慣れ親しませた上で、「読むこと」「書くこと」の活動へと段階的につなぐことができるように指導すること
- ・文字の高さや形を意識し、四線上に正しく書くことを児童自身が意識することができるように指導すること

指導改善のポイント

- 目的や場面、状況などに応じて、語句や表現の意味を理解した上で、具体的な情報を聞き取る学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 中学年の学びを高学年の学びにつなげて指導する際に、「書くこと」において、正しく書くことを児童自身が意識することができる学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+ 4

ア 事例1

目的や場面、状況などに応じて、語句や表現の意味を理解した上で、具体的な情報を聞き取る学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
④(2)	聞くこと	日常生活に関する身近で簡単な事柄（お気に入りの場所）について、具体的な情報を聞き取ることができる。	知識・技能

(リスニング問題文)

④ 次に、問題④に移ります。ひろしさんの学級では、英語の授業で友達のことをもっとよく知るために、友達と学校のお気に入りの場所について、インタビューをし合っています。ひろしさんは、ゆみさんのお気に入りの場所とその理由について聞き取った情報を、ワークシートに日本語でメモしました。次の【ワークシート】の(1)と(2)にあてはまる言葉を、日本語でそれぞれ書きましょう。それでは、始めます。

ゆみ : Hello, Hiroshi.

ひろし : Hi, Yumi.

ゆみ : What's your favorite place in this school?

ひろし : My favorite place is the library. I like books.
How about you, Yumi?

ゆみ : I like the music room.

ひろし : Why?

ゆみ : I like playing the piano.

ひろし : Oh, I see.

繰り返します。

【ワークシート】

★聞いて分かったことをメモしましょう。

相手の名前	お気に入りの場所	理由
ゆみさん	(1)	(2)

正答例	誤答例	
・ピアノをひくことが好き	・ピアノが好き	・ピアノができる
	・ピアノが得意	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
21.9% (0.1%)	76.5%	1.6%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「日常生活に関する身近で簡単な事柄（お気に入りの場所）について、具体的な情報を聞き取ることができる」であり、正答率は21.9%と不十分である。「I like playing the piano.」を「ピアノをひくこと」という意味で捉えられておらず、「ピアノが好き」「ピアノができる」のような誤答が多く見られた。要因としては、「聞くこと」の活動を行う際に、簡単な語句の理解の指導にとどまり、基本的な表現の理解までの指導が不足していると考えられる。

指導に当たっては、中学年の外国語活動で音声に十分慣れ親しんだことを踏まえて、高学年の外国語科では、聞き取る目的や場面、状況などを明確にした上で、自分のことや簡単な事柄については、簡単な語句にとどまらず、基本的な表現で話されたことについても聞き取ることができるような指導が必要である。

単元を通して扱う語句や表現を繰り返し聞いたり、それらを用いて意味のあるやり取りをしたりすることで、基本的な表現の定着を図るようにすることも必要である。また、繰り返し聞くことによって英語の語順に気付くように指導することも大切である。

③ 改善事例 第5学年（学年段階や学習段階に応じて）

1 指導のねらい

日常生活に関する身近で簡単な事柄について、目的や場面、状況などに応じて、具体的な情報を聞いたり、答えたりすることができる。

2 具体例

※前時で、好きなことについて聞き取る活動を行っている。

【導入】設定されたコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを理解し、やり取りを聞く

例) ALT のことを知るために、何をすることが好きか聞く場面

先生 ALT

I like playing soccer. Do you like playing soccer?

I like watching soccer, but I don't like playing soccer.

ん?! (ALT)先生はサッカー好きなの？好きではないの？

課題：＜お互いのことを知るために、先生や友達に何をすることが好きか聞いたり答えたりしよう＞

【展開①】基本的な表現を繰り返し聞き、意味を理解する

(ALT)先生にサッカーを好きか聞いてみよう！

I like soccer. Do you like soccer?

Yes, I like watching soccer.

ウォッチ？見るのが好きということ？

Watch soccer?

Yes, I like watching soccer.
(ジェスチャーをつけながら)

Watching soccer? Watching と言っている！
「サッカーを見るのが好き」という意味だな！

How about you?
Do you like watching soccer?

Yes, I like watch soccer.

Oh, you like watching soccer.

Ah, I like watching soccer.

「サッカーをすることも好き」と言いたいな。

And... I like soccer... play.

Yes, playing soccer!

Oh, playing soccer?

日本語と英語は順番が逆だな。

You like playing soccer.

Playing と言うのか。

JTE：文で言ってみましょう。

I like playing soccer.

Repeat, I like playing soccer.

(他の語句についても練習する)

【展開②】友達とのやり取りを通して、相手の好きなことを聞き取る

Aさん Bさん

A: Hi, B san. I like playing tennis.
How about you?

B: (Aさんはテニスをするのが好きなんだ。)
Hi, A san. I like play basketball.
あっ。I like playing basketball.

指導のポイント

【導入】

具体的な目的や場面、状況などを設定し、教師とALTのやり取りを見て、児童が本時の学習への見通しをもつことができるようにする。

【展開①】

教師とのやり取りの中で、「～することが好き」について、尋ねたり答えたりする表現を何度も繰り返し聞き、児童が意味を推測しながら、新しい表現を理解できるようにする。

言語活動の中で用いられる基本的な表現を聞いたり話したりして活用できるようにする。

やり取りの中で、児童の間違いをリキャストすることで、発音や日本語と英語の語順の違いについての気づきを促す。

「話すこと」は「聞くこと」ができていることが前提となるため、聞き取りが不十分な児童がいる場合は、デジタル教材などで、好きなことについて聞き取る活動を行ったり、その児童とやり取りを行ったりして、児童が自信をもって友だちとのやり取りを行えるようにする。

【展開②】

意味のあるやり取りの中で、表現の定着に向けて言語活動を行う。

【ワークシート】

★友だちの好きなことをメモしましょう。

名前	好きなこと
Aさん	テニスをする

学びの12か条+ 5

イ 事例2

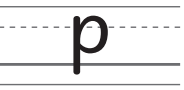
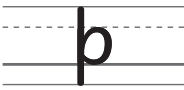
中学年の学びを高学年の学びにつなげて指導する際に、「書くこと」において、児童自身が正しく書くことを意識することができる学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
7(2)	書くこと	文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の小文字を書くことができる。	知識・技能

(リスニング問題文)

- 7 次に、問題7に移ります。次の(1)～(3)の指示に合わせて、解答用紙の4線の上にていねいに書きましょう。それでは、始めます。
- (2) アルファベットを3つ読みます。1つ目に読まれたアルファベットを小文字で書きましょう。
p-e-n (Repeat)

正答	誤答例		
(2) 	 四線上の正しい位置に書いていない。	 正しい形で書いていない。	 正しい形で書いていない。
正答率 61.1%	誤答率 37.7%	無解答率 1.2%	

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の小文字を書くことができる」である。ここでは、上記のような誤答が多く見られた。要因としては、音声と文字を結び付ける指導や四線上に正しく書く指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、中学年における外国語活動で、音声や基本的な表現に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて「読むこと」「書くこと」を段階的に指導することが大切である。その際、文字の高さや形、四線上の位置に気を付けて書くように働きかけることで、正しく書くことができているかを児童自身が意識できるようにすることも必要である。

③ 改善事例 第5学年 「Who is your hero?」 東京書籍 「My hero is my brother.」 光村図書

1 指導のねらい

身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を、文字の高さや形を意識して、四線上に正しく書くことができる。

2 具体例 (単元ゴールとして2時間で設定)

単元ゴール：＜お互いの憧れの人を知るために、ポスターで紹介しよう＞

前時：憧れの人についてお互いに聞いたり話したりする活動



前の時間には、憧れの人について言えるようになったね。
今日は My hero ポスターを作って、お互いに読み合ひましょう。

①職業や人との関係を表す語を読んで、意味が分かるようにする。

職業や人との関係を表す語を読んでみましょう。



doctor

singer

father

mother

(読んだ後)

ポスターで書きたい言葉をノートやワークシートなどに書き写しましょう。

②「My hero ポスター」を作成する。

STEP1

先生のポスターに書かれた文を指で追いながら、発表を聞く

(一人一台端末でポスターを共有する)

This is my hero.
My hero is Hanako.
She is my mother.
She is good at cooking.
She is kind.



STEP2

憧れの人に関するポスターを丁寧に書く

先生の英文を参考にして、ポスターを書きましょう。



Picture Dictionary などを見ながら前時に話した内容を書きましょう。

STEP3

書くことの注意点を確認する

Look at this poster. 祖母も私のヒーローです。英語はこれでよいですか。

She is my Grandmother.

g は地下1階建てです。



She の形がおかしいかな。教科書で調べてみよう。

She の h の形がまちがっています。

なるほど。では、自分のポスターはどうでしょうか。確かめてみましょう。



(自分のポスターを確認する)

b の形をまちがえて、d を書いていた。

p の高さをまちがえていた。

よく気づきましたね。形が紛らわしい文字を確認しましょう。

b d
p q



STEP4

友達と正しく書けているか確かめ合う

お互いのポスターが正しく書けているか確認しましょう。



文字の高さや形は合っているかな。

STEP5

もう一度、自分が書いた文が正しく書けているか見直す



This is my hero.
My hero is Yoshiko.
She is a singer.

四線上に正しく書けているね。

この文字の高さが違っているよ。



本当だ。直そう。

指導のポイント

① 音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、「読むこと」「書くこと」の活動を段階的に取り入れる。

① 音声と文字を結び付けるために、職業や人との関係を表す語を読むことができるようにする。

②-1 教師のモデル文を提示することで、書く活動の見通しをもつことができるようにする。

②-1 指を指しながら読む活動を取り入れることで、児童が音声と文字を関連付けて捉えられるようにする。

②-3 誤りのある例文を示し、文字の高さや形の誤りに気付くことができるようにする。

②-3 児童のつまづきを捉え、児童が文字の高さの違いや紛らわしい文字の形を意識できるようにする。

②-4、5 本時では、言語面の修正を中心に、次時では内容面の充実を図る。

③ 次の時間に、「My hero ポスター」を読み合い、互いにポスターの内容のよさや工夫した点を伝え合う。

中学校 第3学年

「社会」「理科」

中学校第3学年 社会

県平均正答率	学校正答率
52.7%	%

(1) 全体的な傾向

令和8年度の平均正答率は52.7%で、到達状況は不十分である。地理的分野、歴史的分野ともに、複数の資料から読み取った情報を基に、社会的事象の意味や意義などを考察し、適切に表現することについては、依然として課題が見られる。また、地図やグラフなどの資料から、課題の解決につながる情報を読み取ることも課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地理的分野】 (県平均正答率：52.5%) (学校正答率： %)

○：中心からの距離と方位が正しい地図を活用し、世界各地の位置関係や中心からの方位を捉えること [1(1)②③]

設問1(1)の正答率については、88.7%であり、概ね良好である。今後も、面積の正しい地図や中心からの距離と方位の正しい地図など、目的に応じた様々な地図があることを取り上げ、それらの特色に留意して適切に活用できるように指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1)② 東京からの距離 (正距方位図法)	94.6%	%
	(1)③ 東京からの方位 (正距方位図法)	82.7%	%

(県) R 5 : 1(1)②

◇：日本周辺の漁場について理解すること [4(4)]

設問4(4)の正答率については、72.8%であり、基準に到達している。今後も、海洋に囲まれた日本の国土の特色など、日本の自然環境に関する基礎的・基本的な知識の定着を図ることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4	(4) 日本周辺の漁場 (潮目・潮境)	72.8%	%

(県) R 5 : 4(2)

▼：北アメリカ州の農業について複数の資料を基に考察し、適切に表現すること [1(2)②]

設問1(2)②については、p.42 参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(2)② 北アメリカ州の農業の特徴	5.8%	%

(県) R 2 : 1(5)②

- ・資料の数値などを基に、課題解決につながる情報を正確に読み取る学習活動を充実させること
- ・不十分な表現が見られた場合は、資料中の数値を基に説明させるなど、社会的事象の説明に当たって適切な表現となるよう問い返しをすること

▼：工業地域の特色について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること [4(6)]

設問4(6)の正答率については、3.9%であり、不十分である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4	6 日本の工業 (工業地域の立地の特色)	3.9%	%

指導に当たっては、地理的な見方・考え方を働かせ、複数の資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりして、産業の地域的分業の様子について考察し、適切に表現する学習活動を充実させる必要がある。

【歴史的分野】

(県平均正答率：52.8%) (学校正答率：%)

◇：産業革命後の欧米諸国の労働問題について資料を基に考察し、適切に表現すること〔5(2)〕

設問 5(2)の正答率については、70.6%であり、基準に到達している。今後も、資料から学習上の課題の解決につながる情報を読み取ることができるように指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5 (2)	産業革命の問題点	70.6%	%

(県) R 5 : 5(3)

▽：中世の基礎・基本となる歴史上の人物について理解すること〔3(1)〕

設問 3(1)の正答率については、64.9%であり、十分とはいえない。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (1)	歴史上の人物 (フビライ・ハン)	64.9%	%

指導に当たっては、歴史上の人物について、網羅的に羅列する学習にならないよう、その人物の果たした歴史的、社会的な役割などについて、多面的・多角的に考察し、具体的に捉えることができるような学習活動を充実させることが必要である。

▼：藤原氏や平氏が政治上の権力をにぎることができた理由について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔2(5)〕

設問 2(5)については、p.44 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (5)	藤原氏や平氏が栄えた理由	14.9%	%

複数の資料から読み取った情報を、既習の知識と関連付けて多面的・多角的に考察し、前の時代との類似や差異を明確にして、適切に表現すること

▼：開国後の主な貿易相手国の変化の背景について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔5(4)②〕

設問 5(4)②の正答率については、21.6%であり、不十分である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5 (4)②	開国後の主な貿易相手国の変化の背景	21.6%	%

指導に当たっては、複数の資料から読み取った情報を基に、歴史的な見方・考え方を働かせ、歴史的な事象の原因や影響について多面的・多角的に考察し、適切に表現する学習活動を充実させることが必要である。

指導改善のポイント

- ☐ 社会的事象の特色について、資料から正確に読み取った情報を基に、考察したことを適切に表現する力を育成すること (→ 事例 1)
- ☐ 資料から学習上の課題の解決につながる情報を読み取り、既習の知識と関連付けて多面的・多角的に考察し、前の時代との類似や差異を明確にして適切に表現すること (→ 事例 2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+ 1・3

ア 事例 1

社会的事象の特色について、資料から正確に読み取った情報を基に、考察したことを適切に表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

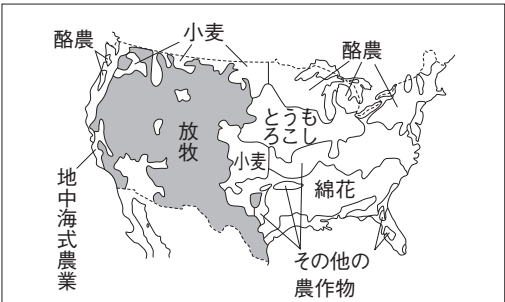
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
①(2)②	地理的分野	北アメリカ州の農業について複数の資料を基に考察し、適切に表現すること	思考・判断・表現 資料活用 の技能

① 地図や資料を見て、あとの問いに答えなさい。

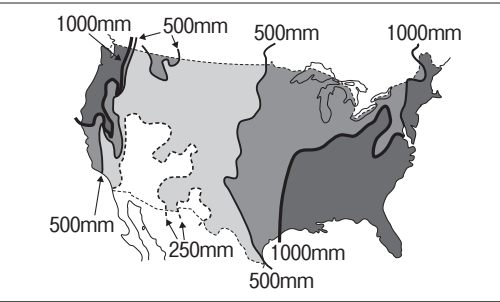
(2) アメリカ合衆国について、次の①～③の問いに答えなさい。

② 資料1は、アメリカ合衆国の農業地域をまとめたものである。アメリカ合衆国の放牧が、どのような自然条件で行われているのか、資料2と資料3をもとに、放牧がさかんな地域の自然条件を、年降水量と標高の値を使って書きなさい。

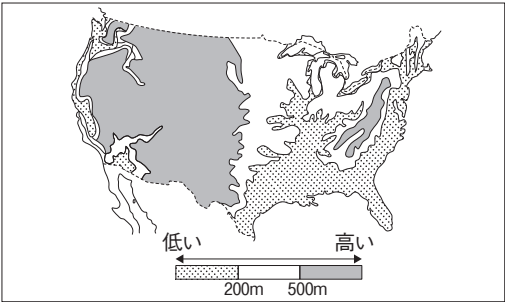
〔資料1〕アメリカ合衆国の農業地域



〔資料2〕アメリカ合衆国の年降水量



〔資料3〕アメリカ合衆国の標高



正答例	誤答例	
放牧は、年降水量が250mm～500mmであり、標高が500mより高い地域で行われている。	・ 標高が高く、年降水量が少ない。 ・ 年降水量が250mmで、標高が500m以上である地域。 ・ 標高が高く、降水量が250mmと少ない。	
正答率 5.8%	誤答率 85.5%	無解答率 8.6%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「北アメリカ州の農業について複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる」であり、正答率は、5.8%と不十分である。誤答については、標高と年降水量に着目し、放牧がさかんな地域の特色を大まかに捉えることはできているが、数値を使って表現していない解答が見られた。また、資料中の数値を用いて表現しているが、数値の読み取りが正確ではない解答も多く見られた。要因としては、課題解決につながる情報を、資料から正確に読み取る学習活動が不十分であることや、資料から読み取った情報を正しく用いて表現することができるようにする指導が不十分であったことが考えられる。

指導に当たっては、資料の読み取りが不十分であったり、誤った表現が見られたりした際には問い返しを行い、課題の解決に必要な情報を資料から正しく読み取り、考察したことを適切に表現することができるようにする学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第1学年 「世界の諸地域 北アメリカ州」

1 指導のねらい

地理的事象の特色について、資料から正確に読み取った情報を基に考察し、適切に表現する力を育成すること。

2 具体例

学習課題 <アメリカでは、農業地域の分布にどのような特色があるのだろうか>

<前半の学習活動>

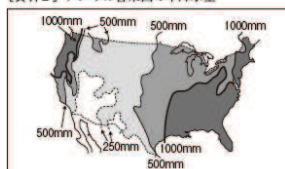
- 資料1を提示し、なぜ、このような分布になるのかについて、予想する。生徒は、自身の予想を確かめるために、自分で探した資料を基に考察する。

【資料1】アメリカ合衆国の農業地域



● 「年降水量」や「標高」に着目した生徒たちの考察

【資料2】アメリカ合衆国の年降水量



降水量に着目して、資料2を見つけました。例えば、年降水量が少ないアメリカの西側では、放牧が行われています。資料1のように、地域によって作る作物や取り組む農業が変わるのは、降水量の違いが理由だと考えられます。



私は、標高に着目しました。資料3から、標高の高い地域では、放牧が行われていることが分かります。作る作物や取り組む農業の違いは、標高が理由だと考えました。

【資料3】アメリカ合衆国の標高



それぞれ年降水量と標高から考えたのですね。では、「年降水量が少ない」「標高が高い」ことは、どこから分かりますか？また、「少ない」「高い」とは、具体的にはどれくらいの量や高さを指しますか？



資料2に書かれた数値から、年降水量が分かります。放牧だと、年降水量が250mmの地域で行われているので、降水量が少ないと考えました。



資料3の凡例に書かれた数値から、標高が500mの地域で放牧が行われていると考えました。

資料2を見ると、「250mm から500mm の間」という表現がよいのでは？

「500m」と「500m よりも高い地域」では、意味が変わってしまうよ。



資料3を見ると、標高も「500m よりも高い地域」が正しいのでは？

資料の数値や凡例の色分けが表す意味を正しく理解することが大切だね。

ポイント①

「具体的な数値」について問うことで、資料の数値に着目した正確な読み取りを促す

資料の中の数値に着目したので、では、放牧が行われているのは、「年降水量が250mmで、標高が500mの地域」ということでよいですか？



ポイント②

不十分な表現が見られた場合は、適切な表現となるよう、問い返しを行う



つまり、具体的な数値を正確に用いて表現すると、「年降水量が500mm以下で、標高が500m以上の、比較的乾燥していて標高が高い地域で放牧が行われている」といえることが言えます。

資料を正しく読み取るには、資料の数値や凡例の色分けが表す意味について、正しく理解する必要があることが分かりましたね。では、放牧以外の農業についても、どのような地域で行われているかを、年降水量や標高の値を使って説明してみましょう。



ポイント③ 資料から正確に読み取った情報を基に、考察したことを適切に表現する

年降水量が500mmから1000mm、標高が200mから500mの地域では、とうもろこしが作られているね。

小麦の栽培が行われている地域は、年降水量や標高の値を使って表現することが難しいな。どうしたらいいのだろう。



標高が200mより低く、降水量が1000mmよりも多い地域で綿花の栽培が行われているよ。ただ、他の地域の学習では、高原で綿花を栽培している例も見られたよ。綿花の栽培は、標高以外の条件も関係しているのかな。

年降水量や標高以外にも農業地域の分布に影響を与える条件があるのではないかな。例えば、気温や緯度・経度についても調べてみてはどうだろう。



資料から正しく読み取った情報を基に考察することによって、新たな疑問が生じたようですね。「気温や緯度・経度も農業に影響を与えているのではないかな」という仮説についても調べてみましょう。また、年降水量や標高以外の条件が影響しているのではないかと考えた生徒に話を聞いてみるのもよいですね。

資料から学習上の課題の解決につながる情報を読み取り、既習の知識と関連付けて多面的・多角的に考察し、前の時代との類似・差異を明確にして適切に表現すること

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
②(5)	歴史的分野	藤原氏や平氏が政治上の権力をにぎることができた理由について複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる。	思考・判断・表現

いっしやう 一条

さんしやう 三条

ごいっしやう 後一条

ごさく 後朱雀

ごれいぜい 後冷泉

けんし 妍子

いし 威子

きし 嬉子

みちなが 道長

のりみち 教通

よりみち 頼通

[illegible]

==== (二重線) は婚姻関係を示している

正答例	誤答例	
・どちらも自分の娘を天皇と結婚させ、生まれた子どもを天皇にすることで、天皇との血縁関係を深めることができたから。 ・どちらも自分の娘を天皇と結婚させ、生まれた子どもを天皇にすることで、権力を強めることができたから。	・自分の娘を天皇と結婚させて、政治の実権をにぎったから。 ・娘を天皇と結婚させて、摂政になることで政治の実権をにぎったから。 ・自分の娘を天皇と結婚させ、摂関政治を行ったから。	
正答率 14.9%	誤答率 72.6%	無解答率 12.6%

指導に当たっては、複数の資料から学習上の課題の解決につながる情報を読み取り、読み取ったことを既習の知識と関連付けて多面的・多角的に考察し、それぞれの時代の特色について、前の時代との類似や差異を明確にしながら説明する学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第1学年 「武家政治の成立とユーラシアの交流」

1 指導のねらい

資料から課題の解決につながる情報を読み取り、既習の知識と関連付けて多面的・多角的に考察し、前の時代との類似・差異に着目して適切に表現することができる。

2 具体例

学習課題〈武士である平清盛は、どのようにして力を強めたのか〉

〈前半の学習活動〉

資料

平治の乱
(平治物語絵巻)

資料

徳子が皇子を出産
(平家物語絵巻)

資料

日宋貿易の地図
や宋銭の写真等

平清盛が力を強めた要因について既習や資料を基に予想する。生徒から出た予想を「武力」「政治力」「経済力」の3つの視点に整理し、選択した視点で資料を読み取り、考察する。

武力

年表に「保元の乱」とあるよ。どのような出来事だったのか調べてみよう。

政治に関わるには、朝廷との関係が重要だったよね。平清盛と朝廷や天皇との関係を調べてみよう。

力をもつには、財力が必要だよ。荘園をたくさんもっていたのかな。

これまでも戦いで政権を争ったことがあったよね。武士の清盛は武力で勢力を拡大したのではないかな。

関係を調べるのであれば、平氏の系図から調べてみてはどうか。

政治力

経済力

「宋」という国と貿易をしているよ。平清盛とのつながりを調べてみよう。

●「政治力」に着目したグループの話し合い



資料1を見ると、平清盛は、自分の娘を天皇と結婚させていることが分かるね。前にも誰かが同じことをしていたような気がするよ。

資料1

平氏の系図

藤原道長のことだね。藤原氏の系図と比べると、どちらも自分の娘を天皇の后にしていることが分かるよ。娘を天皇の后とすることによって、平清盛は力を強めたのではないかな。

資料2

藤原氏の系図



共通点が見つかったようですね。では、なぜ、娘を天皇の后にすることが、力を強めることになるのですか？

ポイント①

課題の解決につながる情報を読み取り、事象相互の類似・差異に着目する

平氏の系図をたどると、平清盛の娘の徳子と高倉天皇の子が安徳天皇になっているよ。

藤原氏も、生まれた子どもが天皇になっているね。

生まれた子どもが天皇になるということは、藤原道長も平清盛も、天皇の母方の祖父ということになるね。

つまり、どちらも生まれた子どもが天皇になることで、天皇と血縁関係になり、政治の実権をにぎることができたんだね。

資料3では、平清盛は、武士として初の太政大臣になっているね。

資料3

平氏に関する年表

藤原氏の摂関政治とは違って、平清盛は、律令で定められた最高官職に就いたのね。

〈平清盛がどのようにして力を強めたのか〉について、系図から見つけた共通点を基に考察できましたね。では、藤原氏との違いはないのでしょうか。他の資料も調べてみましょう。

「武力」「政治力」「経済力」の視点から調べたことについて、共有してみましょう。

様々な乱で活躍した平氏は、天皇や貴族の信頼を得て、源氏を破って勢力を広げたよ。武力によって信頼を得たり、勢力を広げたりした点が、武士である平清盛の特徴だね。

政治力

平清盛は、藤原氏のように、自分の娘を天皇と結婚させ、生まれた子どもを天皇にすることで、天皇との血縁関係を深め、政治の力を強めました。ただ、藤原氏が摂政や関白となったのに対して、平清盛は武士として初の太政大臣になっています。

多くの荘園の寄進を受けたことは藤原氏と同じですが、平清盛は、宋との貿易の利益で、経済力を高めています。

経済力

ポイント②

資料から読み取った情報を基に、多面的・多角的に考察し、前の時代との類似・差異を明確にして、適切に表現してまとめる

共有したことを基に、武士である平清盛が力を強めることができた理由について、前の時代との共通点や違いに着目しながら、まとめてみましょう。

中学校第3学年 理科

県平均正答率	学校正答率
48.9%	%

(1) 全体的な傾向

令和8年度の平均正答率は48.9%で、到達状況は不十分である。領域別では、「生命」を柱とする領域は、6年度より7.7ポイント上回っており、到達状況は基準に達している。また、「エネルギー」を柱とする領域は、6年度より14.1ポイント、「地球」を柱とする領域は、6年度より18.4ポイント下回っており、それぞれ到達状況は不十分である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【第1分野 「エネルギー」を柱とする領域】 (県平均正答率：40.1%) (学校正答率： %)

▽：音の伝わり方を理解すること〔4(1)〕

設問4(1)の正答率については、61.0%であり、十分とはいえない。要因としては、音はものが振動することによって生じ、空気中などを伝わることを理解する学習活動が不十分であることが考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4 (1)	音の伝わり方	61.0%	%

指導に当たっては、二つのおんさの共鳴現象や真空鈴の実験などを行うことを通して、音を伝える物質の存在が必要であることを理解できるような学習活動を充実させることが必要である。

▼：ギターを演奏する様子から生じた新たな疑問を解決するために、適切な課題を考えること〔4(4)〕

設問4(4)については、p.48 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4 (4)	疑問を解決するための課題の設定【構想】	26.0%	%

- ・習得した知識を基に、新たな疑問をもつことができるような事物・現象や資料を提示すること
- ・実際に理科室で解決することが可能であるかを考え、実験結果を比較する上で必要な条件などを明確にして、自分の考えをより妥当なものにするよう促すこと

【第1分野 「粒子」を柱とする領域】 (県平均正答率：45.6%) (学校正答率： %)

○：物質が水に溶けている様子について理解すること〔3(2)〕

設問3(2)の正答率については、83.0%であり、概ね良好である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (2)	水溶液の粒子モデル	83.0%	%

今後も、物質の水への溶解を粒子のモデルを用いて微視的に捉えることができるようにするとともに、粒子のモデルで均一になる様子について説明することができるような指導を行うことが大切である。

(県) H26：4(2)

▼：酸化銀の分解における化学反応式を理解すること〔6(3)化学反応式〕

設問6(3)化学反応式の正答率については、23.6%であり、不十分である。要因としては、化学変化において、原子や分子のモデルと化学式を関連付けて理解する学習活動が不十分であることが考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6 (3)化学反応式	酸化銀の分解の化学反応式	23.6%	%

(県) R6：7(1) R5：6(3)

指導に当たっては、モデルを用いて目に見えない原子や分子をイメージしやすいように工夫するとともに、化学反応式で表すことは、化学変化に関係する原子や分子の種類や数を捉える上で有効であることに気付くことができるような指導を行うことが必要である。

【第2分野 「生命」を柱とする領域】

(県平均正答率：74.1%) (学校正答率： %)

◎：卵生のグループに分類できる動物について理解すること〔1(2)〕

設問1(2)の正答率については、90.0%であり、良好である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1 (2)	卵生に分類される動物	90.0%	%

今後も、動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などから動物の体の基本的なつくりを理解するとともに、動物は共通点や相違点に基づいて分類できることを見いだして理解できるような指導を行うことが大切である。

▼：動物の特徴を比較し、分類の観点を考えること〔1(3)〕

設問1(3)については、p.50 参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1 (3)	動物の分類の観点	52.7%	%

(県) R 5 : 1(4)

- ・既習の生物の共通点や相違点を基に、観点や基準を見いだす場面を設定すること
- ・分類の結果を比較することを通して、観点や基準が変わると分類の結果が変わることに気付くことができるような場面を設定すること
- ・別の生物を当てはめ、どの仲間に分類できるかを考える場面や、分類の意味に気付くことができるような場面を設定すること

【第2分野 「地球」を柱とする領域】

(県平均正答率：35.9%) (学校正答率： %)

▼：柱状図と地図を関連付け、地層の傾きを考えること〔5(3)〕

設問5(3)の正答率については、34.7%であり、不十分である。要因としては、柱状図から地層の重なり方や広がり方を理解する学習活動が不十分であることが考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5 (3)	地層の傾き【分析・解釈】	34.7%	%

(県) R 5 : 5(2) R 3 : 3(2)

指導に当たっては、地層の重なり方や広がり方の規則性について、地表からの深さを基準とした柱状図を基に、標高を基準とした図で捉えなおすなど、空間的な見方から地層の様子を捉えることができるようにすることが必要である。

▼：冬の太平洋側に見られる特徴的な気象の状況を理解すること〔8(1)Y〕

設問8(1)Yの正答率については、8.3%であり、不十分である。要因としては、大気の上昇や下降に伴い気温や湿度が変化することと気象の状況との関係性について理解する学習活動が不十分であることが考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8 (1)Y	冬の太平洋側に見られる特徴的な気象の状況	8.3%	%

指導に当たっては、気圧配置と風の吹き方や雲の発生の仕組みとの関係を見いだすことができるようにするとともに、天気図や気象衛星画像から、季節ごとの日本の天気の特徴を日本周辺の気団と関連付けて理解できるようにすることが必要である。

指導改善のポイント

- 習得した自然の事物・現象に関する知識・技能を活用して問題を見だし、問題解決を行う学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 分類の結果を比較することを通して、多様な観点から考察する学習活動を充実すること (→ 事例2)

ア 事例1

習得した自然の事物・現象に関する知識・技能を活用して問題を見だし、問題解決を行う学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
④(4)	第1分野 「エネルギー」 を柱とする領域	ギターを演奏する様子から生じた新たな疑問を解決するために、適切な課題を考えることができる。	思考・判断・表現

- ④ 花子さんは、レポートをまとめた後、友達がギターを演奏するようすを見て、新たな疑問をもちました。

新たな疑問

ギターには、太さの異なる弦が6本あり、友達は、そのギターを弾きながら、様々な高さの音を出していた。なぜ高さの異なる音が出せるのかな。



- (4) 花子さんの新たな疑問を、実験を行って解決するためには、どのような課題を設定すればよいか、書きなさい。

正答例	誤答例	
弦の太さと音の高さには、どのような関係があるのだろうか。	・なぜ、高さの異なる音を出せるのか。 ・弦の太さや張りの強さと音の大きさや高さには、どのような関係があるか。	
正答率（準正答率） 26.0%（0.4%）	誤答率 56.8%	無解答率 17.3%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「ギターを演奏する様子から生じた新たな疑問を解決するために、適切な課題を考えることができる。」であり、正答率は26.0%と不十分である。誤答については、弦の太さと音の高さの関係性に着目できていない内容が多く見られた。また、無解答も多く見られた。要因としては、習得した自然の事物・現象に関する知識・技能を活用して新たな問題を見だし、解決可能な課題を生徒自身が設定する学習活動が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、新たな問題を見だし、解決可能な課題を生徒自身が設定して問題解決を行い、探究の過程を振り返ることから、次の新たな問題を見だすなど、探究の過程を繰り返し行う学習活動を充実させることが大切である。その際、既習の内容を基に問題が実際に解決できるかどうかに着目し、計画の立案の場面では、実験結果を比較する上で必要な条件などを明確にして、自分の考えをより妥当なものにする学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第1学年「身近な物理現象（力の働き）」

1 指導のねらい

習得した自然の事物・現象に関する知識・技能を活用して問題を見だし、適切な課題を設定することができる。

2 具体例

- (1) 学習課題についてまとめた後、新たな疑問をもつ。

< 課題 > バネを引く力の大きさとバネののびにはどのような関係があるのだろうか？

まとめ バネののびは、バネを引く力の大きさに比例する関係がある。



日常生活や社会にあるばねを利用したものとして、どのようなものがありますか？

ボールペンに、ばねが入っているよ。

トランポリンに、ばねが使われているよ。



【ポイント1】

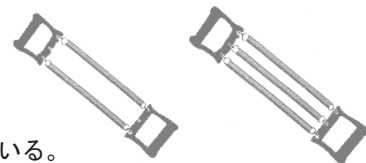
習得した知識を基に、新たな疑問をもつことができるような事物・現象や資料を提示する。

※振り返りの視点を明確にして、新たな疑問をもつことができるようにする方法も考えられる。

その際、振り返りを書いて終わるのではなく、書いた内容を次時などに活用できるようにすることが大切である。



そうですね。身のまわりには、ばねを利用したものがいろいろありますね。今日は、理科室に筋力トレーニングに使うエクスペンダーというものを持ってきました。



※ここでは、ばねの数に着目できるように2種類のエクスペンダーを提示している。



ばねの本数が違うな。

ばねの本数が増えると、エクスペンダーを引くのは大変なのかな？



(2) 生じた疑問から解決したい問題を見いだす。



前回までの学習を活用して、解決したい問題について整理しましょう。



前回の実験では、ばねののびは引く力の大きさに比例していたけれど、ばねの本数が2倍、3倍になると、ばねを引く力も2倍、3倍になるのかな？



そうだね。ばねの本数によって引く力がどのくらい変わるかについて解決したいね。

(3) 観察・実験で解決することが可能であることを検討する。

【ポイント2】

実際に理科室で解決することが可能であることを考え、実験結果を比較する上で必要な条件などを明確にして、自分の考えをより妥当なものにするよう促す。



理科室でどのような実験を行うと、この問題を解決することができそうですか？

エクスペンダーを使って調べるには、とても大きな力が必要だから、測定が難しそうだな。



エクスペンダーの代わりに、前の実験で使ったばねを使うとできそうだね。



ばねの本数を変えて、力の大きさを測定すればいいね。



同じ種類、同じ長さのばねを用意して、エクスペンダーのように横に並べて調べればいいね。



前の実験と同じように、おもりの個数を変えて、力の大きさを測定すれば解決できそうだね。



結果を正しく比較できる実験方法になっていますか？

そうか。本数による違いを調べたいのだから、ばねが2本のときと3本のときのそれぞれのばねを同じ長さまでのばしたときの力を比べないと、ばねを引く力の大きさは、比べられないのか。



ばねを同じ長さまでのばしたときのおもりの個数を記録して、その結果を比較することで、どのくらい力が変わるかが分かるね。



(4) 課題を設定し、実際に観察・実験を行う。



課題 並列につないだばねの本数を変えると、同じ長さまでのばすために必要な力の大きさはどのように変わるのだろうか。

※その他、「同じ力で引いたときのばねの本数によるばねののびの違い」、「ばねを直列につないだときのばねののびの違い」などに着目した課題も考えられる。

イ 事例2

分類の結果を比較することを通して、多様な観点から考察する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
①(3)	第2分野 「生命」 を柱とする領域	動物の特徴を比較し、分類の観点を考えることができる。	思考・判断・表現

- ① 花子さんは、ハト、フナ、トカゲ、ウサギの4種類のセキツイ動物について、特徴をもとに分類して、ノートにまとめました。あとの問いに答えなさい。

ノートの一部

特徴	観点	なかまのふやし方	
	基準	(X)	卵生
動物		ウサギ	ハト、フナ、トカゲ

- (3) 卵生のグループであるハト、フナ、トカゲは、卵の特徴に注目すると、さらに右の表のように分類できる。表のYに当てはまる言葉を書きなさい。

表

特徴	観点	(Y) の有無	
	基準	ある	ない
動物		ハト、トカゲ	フナ

正答	誤答例	
殻	背骨、セキツイ、肺	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
52.7% (0.0%)	42.1%	5.2%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「動物の特徴を比較し、分類の観点を考えることができる」であり、正答率は52.7%と不十分である。誤答については、「背骨」、「セキツイ」、「肺」など、からだのつくりを示す用語が多く見られた。要因としては、実際の授業では、生物の分類に用いる特徴や用語を知識として習得するような指導が中心となり、複数の生物を比較しながら分類の観点を考えたり、分類することの意味について考えたりする学習活動が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、いろいろな生物を比較しながら共通点や相違点を見だし、それらを分類の観点や基準として整理する学習活動を充実させることが必要である。その際、他者と分類の結果を相互に比較することを通して、多様な分類の仕方があることや分類の意味について考えることができるようにすることが大切である。

③ 改善事例 第1学年「いろいろな生物とその共通点 (生物の体の共通点と相違点)」

1 指導のねらい

いろいろな生物の共通点や相違点を基に、生物を分類するための観点や基準を見だし、分類の結果を比較しながら表現している。

2 具体例



これまでいろいろな動物の特徴について学んできましたね。もし、みなさんが「動物図鑑」の編集長だったら、ここに示した8種類の動物の特徴を基に、どのような図鑑をつくりますか。今日は、図鑑をつくるための「章分け」を考えてみてください。章の数は2～3つとします。

ウサギ	カエル	ハト	イルカ
メダカ	トカゲ	サメ	コウモリ

動物図鑑	目次
	1章 ...
	2章 ...
	3章 ...

(1) 生物を分類するための観点や基準を見いだす。

わたしは、「移動するための体のつくり図鑑」として、この3章にしたよ。

特徴	観点	移動するための体のつくり		
	基準	1. 翼	2. 足	3. ひれ
動物	ハト	ウサギ	メダカ	
	コウモリ	カエル	サメ	
		トカゲ	イルカ	

Aさん

Bさん

【ポイント1】

既習の生物の共通点や相違点を基に、観点や基準を見いだす場面を設定する。

わたしは、「呼吸の仕方図鑑」として、2章にしたよ。

特徴	観点	呼吸の仕方	
	基準	1. えら	2. 肺
動物	メダカ	ウサギ、トカゲ、ハト	
	サメ	コウモリ、カエル、イルカ	

(2) 分類の結果を比較し、観点や基準が適切か検討する。



他の人の分類の結果と比較して、観点や基準が適切か考えてみましょう。



Bさんは、カエルを「肺」の章に入れているけれど、カエルは子と親で呼吸の仕方が変わるのだったよね？

【ポイント2】

分類の結果を比較することを通して、観点や基準が変わると分類の結果が変わることに気付くことができるような場面を設定する。

そうだったね。では、カエルだけ「(子)えら→(親)呼吸」の別の章にするね。



Cさんは、このように分けたようです。どんな観点と基準にしたか分かりますか？

特徴	観点	(?)	
	基準	1. (?)	2. (?)
動物	ウサギ	ハト、カエル	
	コウモリ	トカゲ、メダカ	
	イルカ	サメ	

ウサギ・コウモリ・イルカの3種類の共通点は何だろう。「生活場所」や「体表の様子」は異なるけれど、「呼吸の仕方」は、「肺」で共通しているよね。



でも、ハトやトカゲ、カエルの親も「肺」で呼吸するから、「呼吸の仕方」以外の共通点があると思うよ。

3種類とも「胎生」という共通点があるよ。この3種類以外は、「卵生」だから、観点は「子のうまれ方」で、基準は「胎生」と「卵生」ではないかな。

そうだよ。Bさんの言う通り、「胎生」と「卵生」で分けたよ。みんなの章分けを比べると、観点や基準によって、こんなにも仲間分けが変わってくるのだね。

Cさん

(3) 別の生物を当てはめ、分類できるかを考える。



もし、動物図鑑にカモノハシを加えたら、みなさんの図鑑ではどの章に入りますか？



カモノハシは体毛があるね。ぼくの分け方だったら、ウサギと同じ「胎生」の章かな？



カモノハシは、子を乳で育てるけれど、卵を産むよ。



今日は、それぞれが考えた観点と基準で分類をしましたが、分類の学習を通して、どのようなことを感じましたか？

そうなんだ。カモノハシに、すごく興味がわいてきたな。

共通点や相違点についての理解が深まり、それぞれの特徴が見えやすくなったな。

まだ発見されていない動物が見つかったも、その動物の特徴を調べれば、共通点や相違点からどの仲間に似ているかが分かり、共通の祖先なども推測できることに気付いたよ。



脊椎動物の仲間分けについて、その観点や基準を考えてみたいな。

※ここでの学びを、脊椎動物の5つの分類の観点を推測する活動や3年生の進化の学習につなげることも考えられる。
※分類をする活動を通して、共通点や相違点を見いだすなどの見方・考え方が働き、多くの情報を整理・分析する力が高まる。

Ⅱ 質問調査結果の分析・考察

1 小学校第4学年児童の調査結果

令和7年度・8年度は全公立小学校（義務教育学校を含む）における第4学年の全児童を対象、令和6年度は抽出学級（各学校1学級）の児童を対象とした。

学校が好き、各教科等の勉強が好き、各教科の授業の内容がよく分かると答えた児童の割合は、これまでと同様に、ほとんどの教科・領域で80%以上、高いものは90%を上回っており、全般的に小4児童の学習意欲は、概ね良好である。

学びの12か条+ 2

- 「問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」（85.4%）児童の割合は、これまでと同様に高い。今後も、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることが大切である。

学びの12か条+ 4

- 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている」（95.5%）児童の割合は、調査開始以来最も高い。

学びの12か条+ 8

- 家庭での学習時間について、「学校の宿題をしている」（93.4%）児童の割合は、これまでと同様に高い。
- 「テレビ番組やインターネット上の動画などを2時間以上見たり聞いたりしている」（52.2%）児童の割合は半数を超えており、今後、学習面や生活面においてどのような影響を与えるのか注視していく必要がある。
- 「学校のきまりを守っている」（92.8%）、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」（93.8%）児童の割合は、これまでと同様にいずれも高い。

以上のことより、学力・学習を支える基盤づくりについては、概ね良好である。

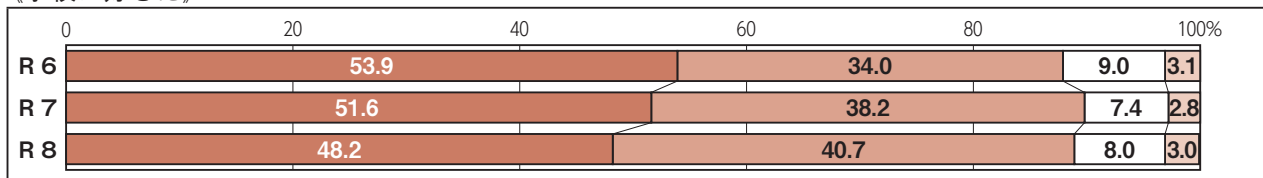
※無回答を除いた割合で示している。

1

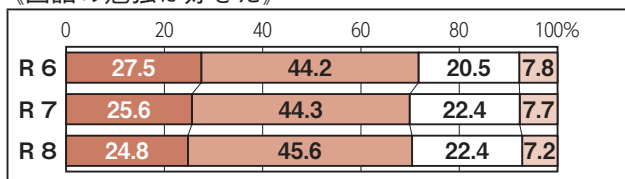
学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよく分かりますか。

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば当てはまる
 ☐ どちらかといえば当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

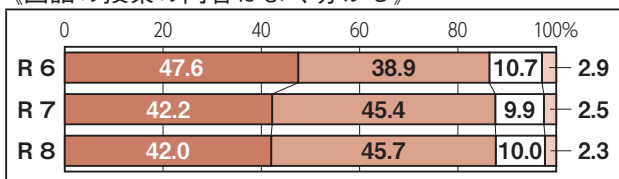
《学校は好きだ》



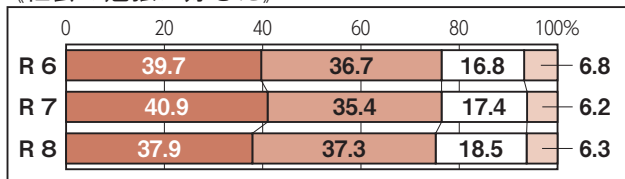
《国語の勉強は好きだ》



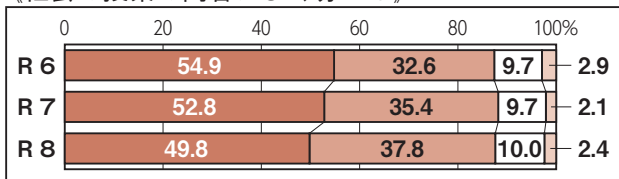
《国語の授業の内容はよく分かる》



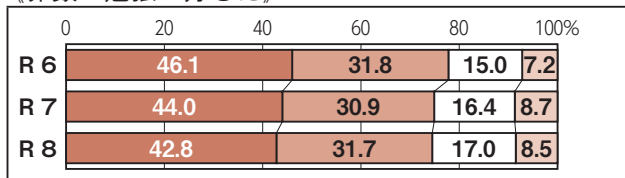
《社会の勉強は好きだ》



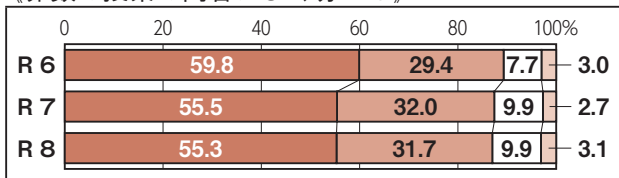
《社会の授業の内容はよく分かる》



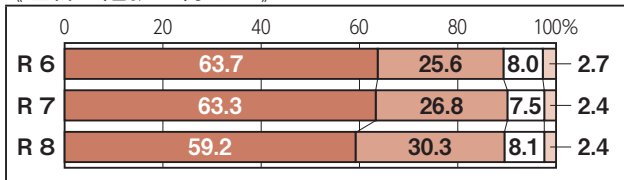
《算数の勉強は好きだ》



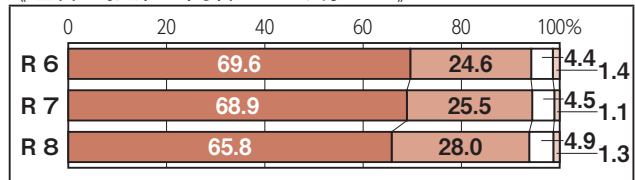
《算数の授業の内容はよく分かる》



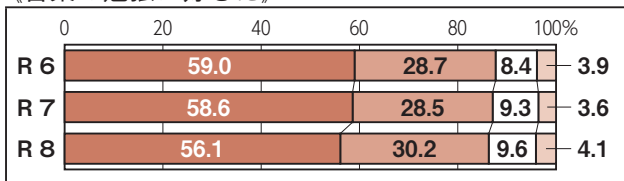
《理科の勉強は好きだ》



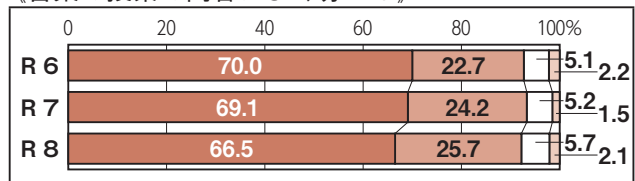
《理科の授業の内容はよく分かる》



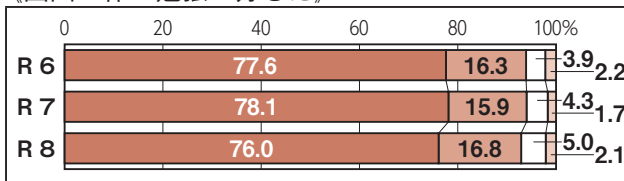
《音楽の勉強は好きだ》



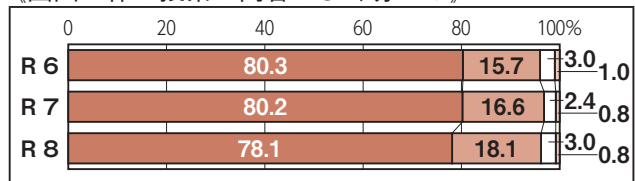
《音楽の授業の内容はよく分かる》



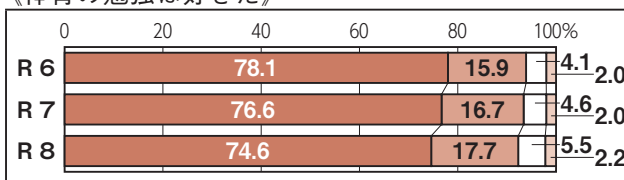
《図画工作の勉強は好きだ》



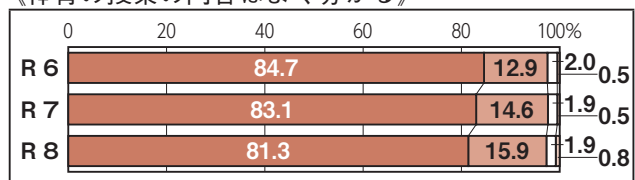
《図画工作の授業の内容はよく分かる》



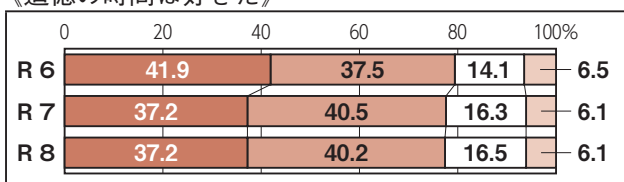
《体育の勉強は好きだ》



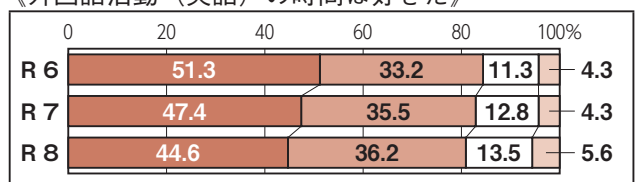
《体育の授業の内容はよく分かる》



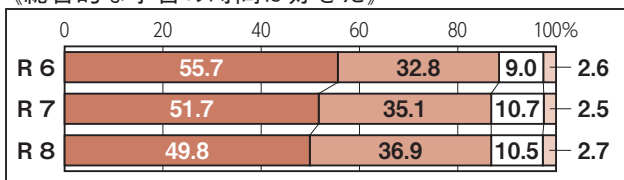
《道徳の時間は好きだ》



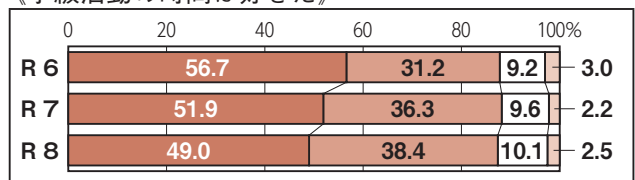
《外国語活動（英語）の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



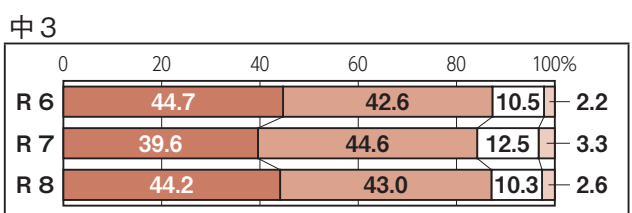
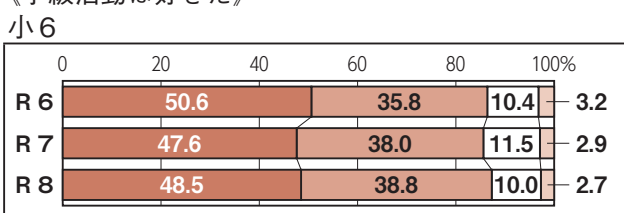
《学級活動の時間は好きだ》



- ・《(各教科等の) 勉強(時間)は好きだ》について、肯定的な回答をした児童の割合は、R 6年度からR 8年度において、理科で89.3%～90.1%、音楽で86.3%～87.7%、図画工作で92.8%～94.0%、体育で92.3%～94.0%、総合的な学習の時間で86.7%～88.5%、学級活動で87.4%～88.2%であり、高い割合で推移している。
- ・《(各教科の) 授業の内容はよく分かる》について、肯定的な回答をした児童の割合は、R 6年度からR 8年度において、国語で86.5%～87.7%、社会で87.5%～88.2%、算数で87.0%～89.2%、理科で93.8%～94.4%、音楽で92.2%～93.3%、図画工作で96.0%～96.8%、体育で97.2%～97.7%であり、高い割合で推移している。

<参考>

《学級活動は好きだ》



- ・《学級活動は好きだ》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6で87.3%、中3で87.2%であり、R 7年度より小6では1.7ポイント、中3では3.0ポイント増加している。

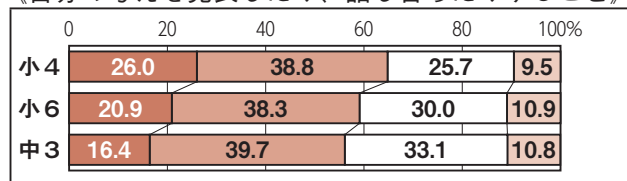
2

授業の中で次のようなことは好きですか。

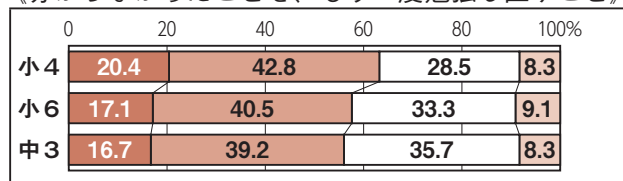
☐ 好き
 ☐ どちらかといえば好き
 ☐ どちらかといえば好きではない
 ☐ 好きではない

<学年間比較>

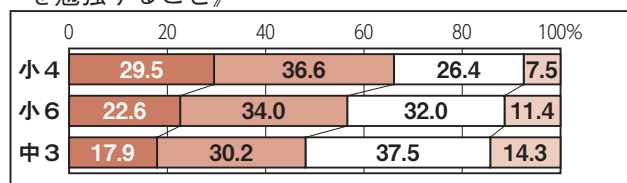
《自分の考えを発表したり、話し合ったりすること》



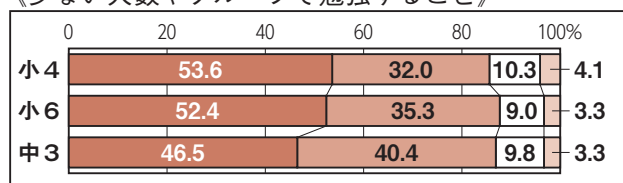
《分らなかったことを、もう一度勉強し直すこと》



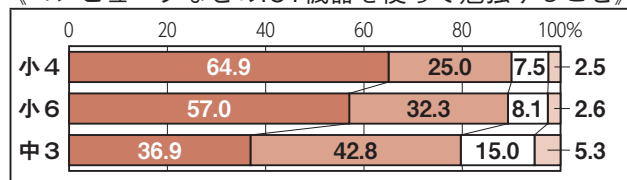
《教科書に出ていないことや、もっとくわしいことを勉強すること》



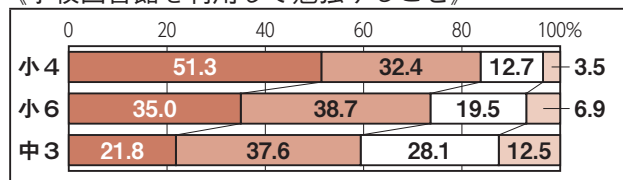
《少ない人数やグループで勉強すること》



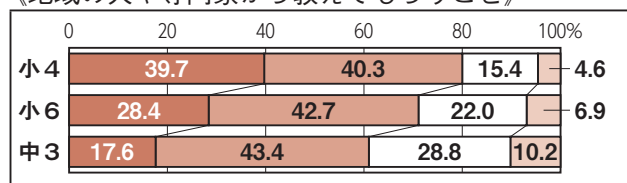
《コンピュータなどのICT機器を使って勉強すること》



《学校図書館を利用して勉強すること》*1



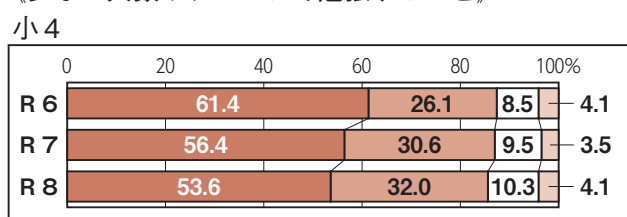
《地域の人や専門家から教えてもらうこと》



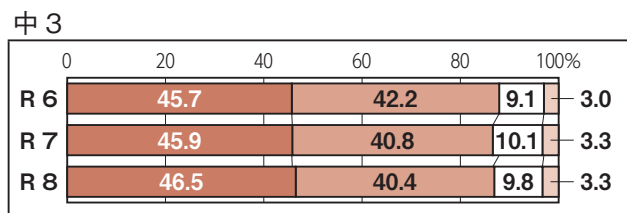
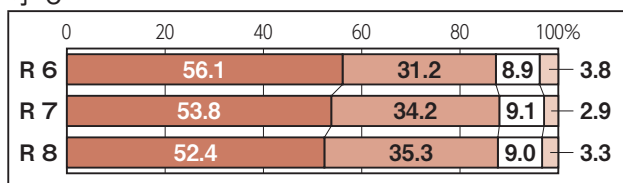
・《少ない人数やグループで勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で85.6%、小6で87.7%、中3で86.9%であり、いずれの学年においても高い。

<参考>

《少ない人数やグループで勉強すること》



小6



・《少ない人数やグループで勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、R6年度からR8年度において、小4で85.6%～87.5%、小6で87.3%～88.0%、中3で86.7%～87.9%であり、いずれの学年においても高い割合で推移している。

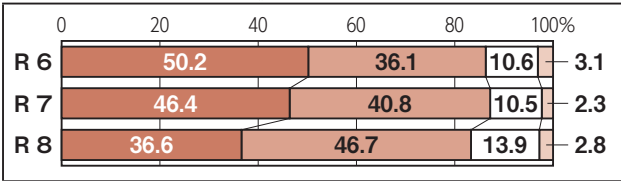
*1 R7年度までは「図書館を利用して勉強すること」

3

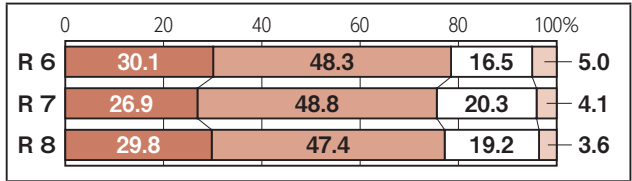
次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば当てはまる
 ☐ どちらかといえば当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

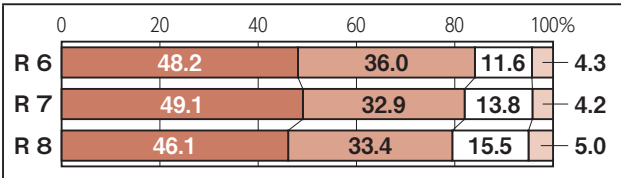
《授業では、目標（めあて・ねらい・課題）をもって学習していたと思う》*2



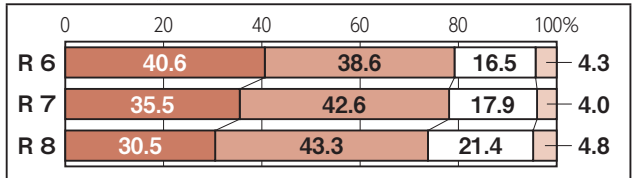
《授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》



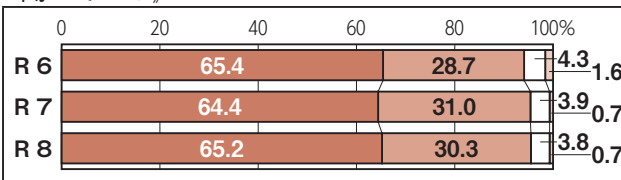
《授業では、自分の考えを発言したり、発表したりする場があったと思う》*3



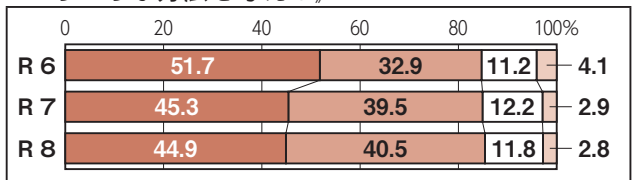
《授業の最後に、学習を振り返る活動をよく行っていたと思う》*4



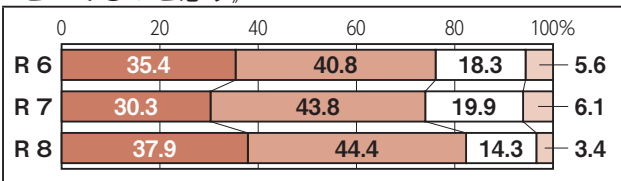
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



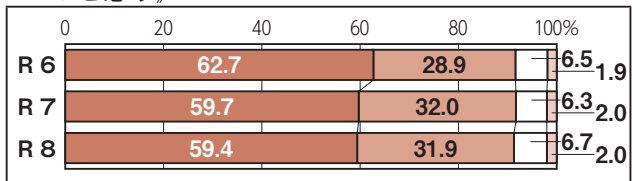
《問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》



《授業で学習したことを、ふだんの生活で生かすことができると思う》*5



《先生は、授業やテストで間違えたところや、分からないところについて、分かるまで教えてくれていると思う》

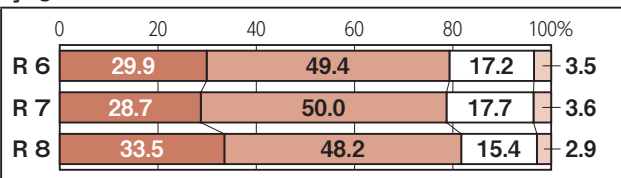


- ・《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、95.5%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《先生は、授業やテストで間違えたところや、分からないところについて、分かるまで教えてくれていると思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は、R 6年度からR 8年度において、91.3%～91.7%であり、高い割合で推移している。
- ・《授業の最後に、学習を振り返る活動をよく行っていたと思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は、73.8%であり、R 7年度より4.3ポイント減少している。

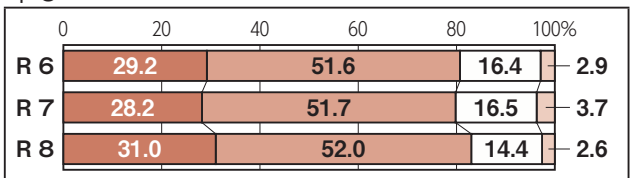
<参考>

《授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》

小6



中3



- ・《授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6で81.7%、中3で83.0%であり、調査開始以来最も高い。

*2 R 7年度までは「授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う」

*3 R 6年度は「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う」

*4 R 7年度までは「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」

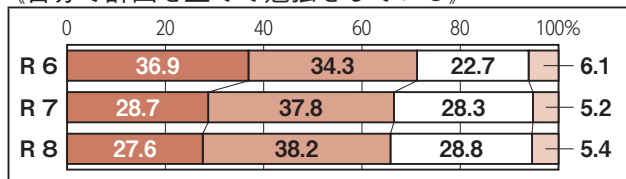
*5 R 7年度までは「授業で学習したことを、ふだんの生活で生かさないか考える」

4

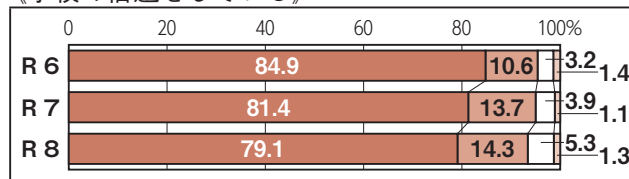
家で次のようなことをしていますか。

☒ している
 ☒ どちらかといえばしている
 ☐ あまりしていない
 ☐ 全くしていない

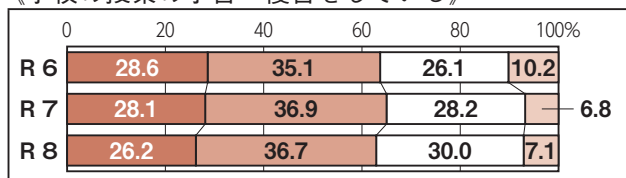
《自分で計画を立てて勉強をしている》



《学校の宿題をしている》



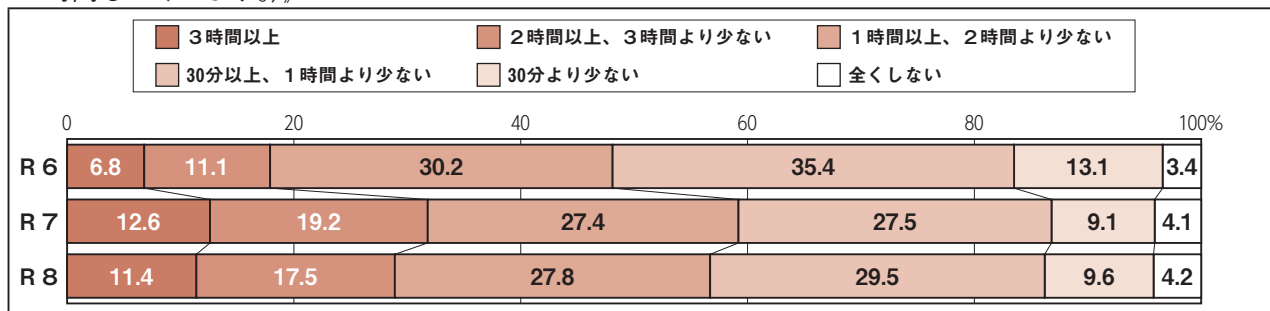
《学校の授業の予習・復習をしている》



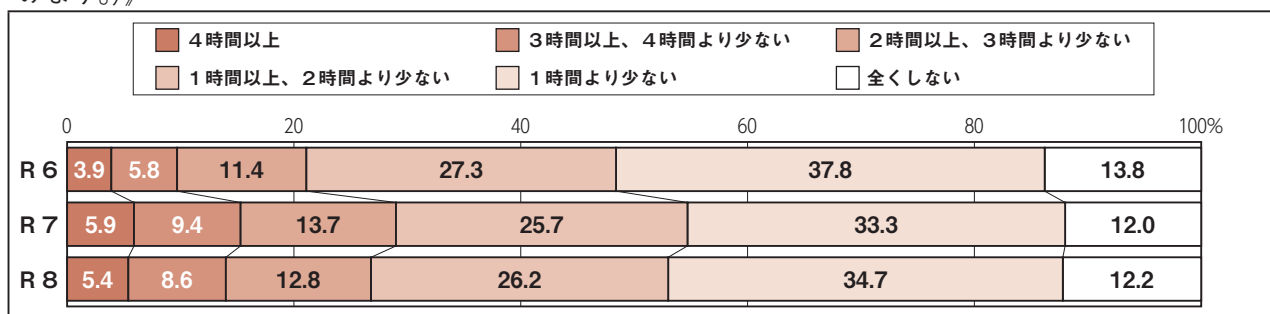
・《学校の宿題をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、93.4%であり、これまでと同様に高い。

5

《あなたは、学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間もふくみます。）》



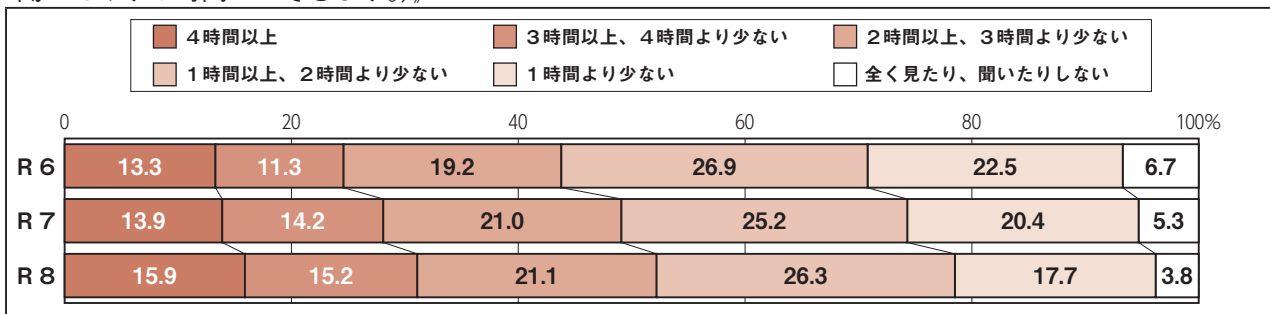
《あなたは、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間もふくみます。）》



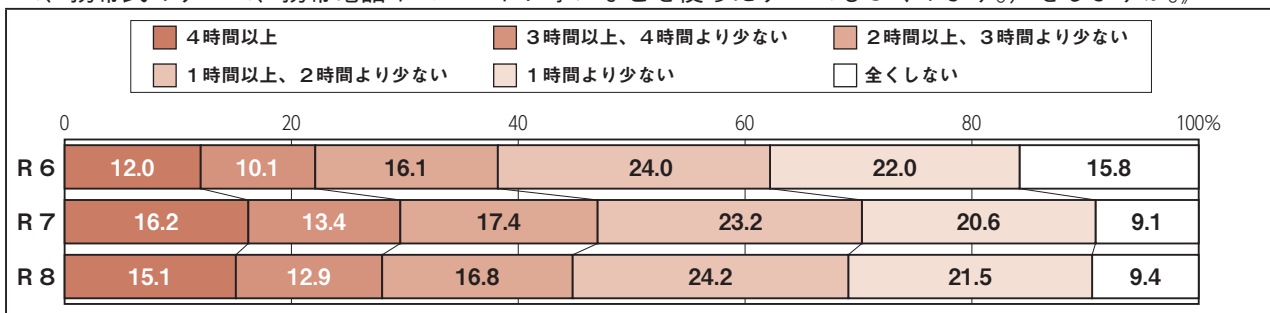
・ 普段の家庭学習時間について、勉強する時間が「1時間以上」と答えた児童の割合は、56.7%であり、半数を超えている。
 ・ 休日の家庭学習時間について、勉強する時間が「1時間以上」と答えた児童の割合は、53.0%であり、半数を超えている。

6

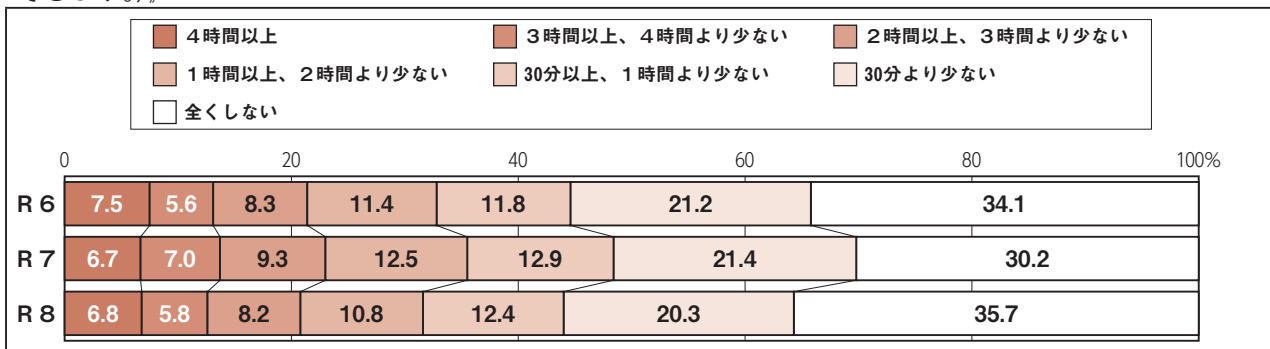
《あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビ番組やインターネット上の動画などを見たり、聞いたりしますか。（勉強のためのテレビ番組やインターネット上の動画などを見たり、聞いたりする時間はのぞきます。）》*6



《あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使ったゲームもふくみます。）をしますか。》



《あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどでインターネットやメールなどをしますか。（携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間はのぞきます。）》*7



- ・ 普段のテレビ番組やインターネット上の動画などを見たり、聞いたりする時間が「2時間以上」と答えた児童の割合は、52.2%であり、R 7年度より3.1ポイント増加している。
- ・ 普段の携帯電話やスマートフォンなどでインターネットやメールなどをする時間について、「30分以上」と答えた児童の割合は、44.0%であり、R 7年度より4.4ポイント減少している。

* 6 R 7年度までは、「あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか。（勉強のためのテレビやビデオ・DVDなどを見る時間、テレビゲームをする時間はのぞきます。）」

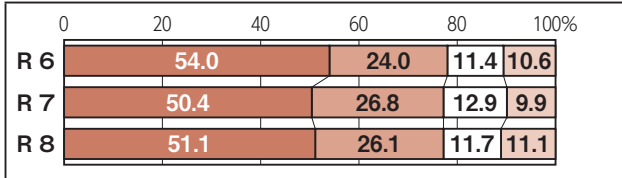
* 7 R 7年度までは、「あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間はのぞきます。）」

7

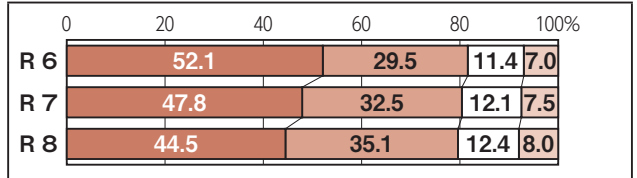
次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる □ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

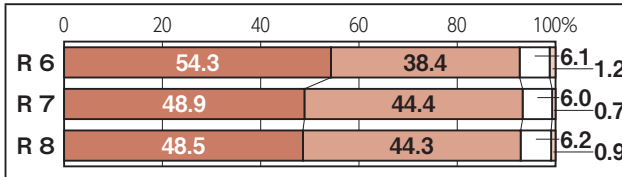
《テレビを見る時間やテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使ったゲームもふくみます。）をする時間などのルールを家の人と決めている》



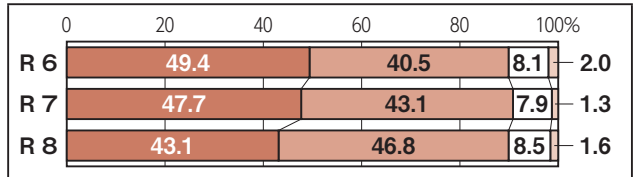
《学校での出来事について、家の人（兄弟姉妹はふくみません。）と話している》



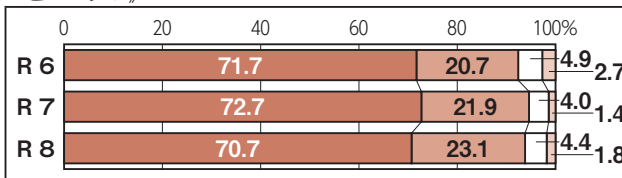
《学校のきまりを守っている》



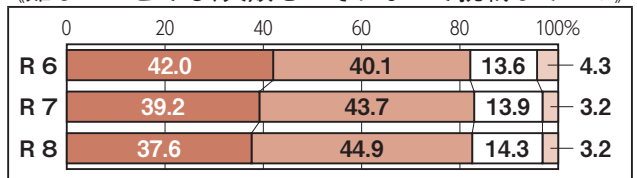
《人が困っているときは、進んで助けている》



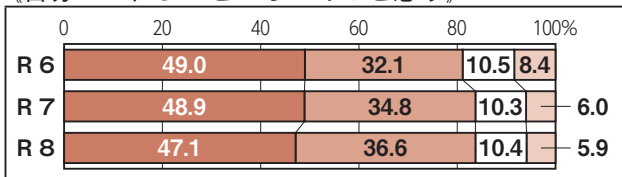
《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



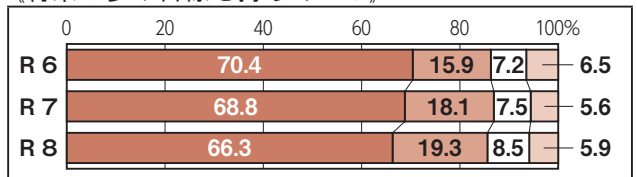
《難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している》



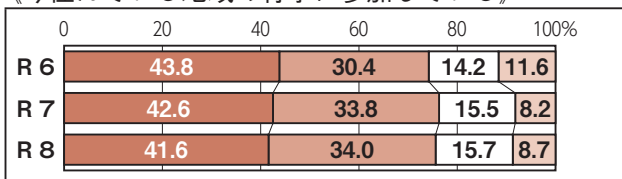
《自分には、よいところがあると思う》



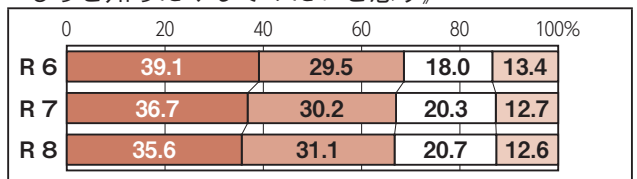
《将来の夢や目標を持っている》



《今住んでいる地域の行事に参加している》



《外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う》



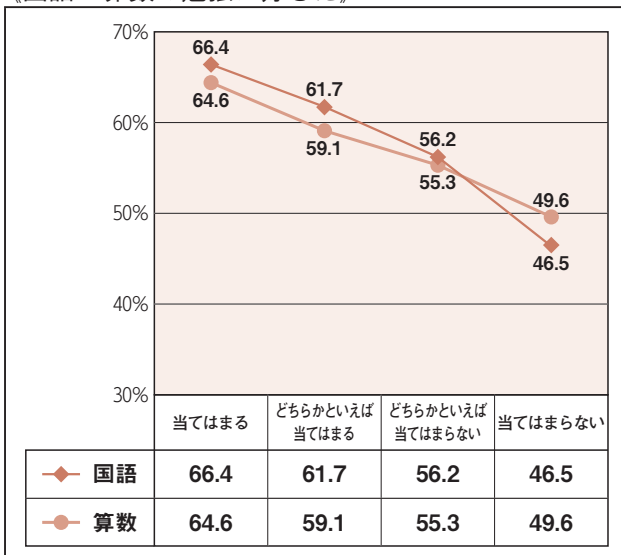
- ・《学校のきまりを守っている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、92.8%であり、これまでと同様に高い。
- ・《人が困っているときは、進んで助けている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、89.9%であり、これまでと同様に高い。
- ・《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》について、肯定的な回答をした児童の割合は、93.8%であり、これまでと同様に高い。

2 学習・生活状況と正答率との関係

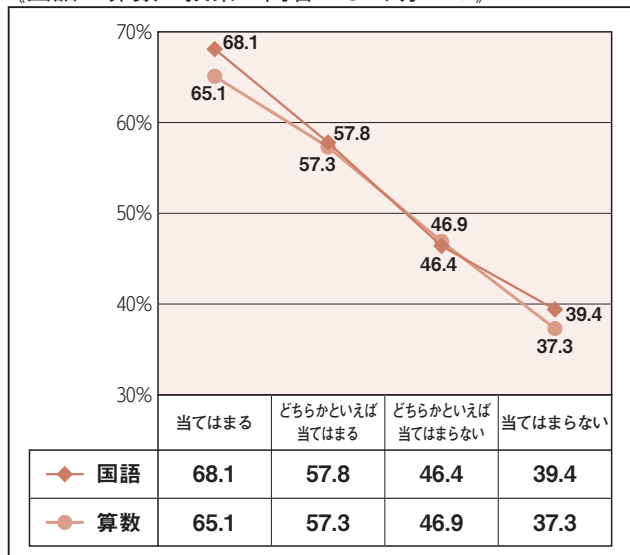
○小4児童の学習・生活状況について、以下と回答している児童の方が、教科（国語・算数）の正答率が高い傾向が見られる。

- ・国語・算数の勉強は好きだ。
- ・国語・算数の授業の内容はよく分かる。
- ・分からなかったことを、もう一度勉強し直すことが好きだ。
- ・授業では、目標（めあて・ねらい・課題）をもって学習していたと思う。
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・授業では、自分の考えを発言したり、発表したりする場があったと思う。
- ・授業の最後に、学習を振り返る活動をよく行っていたと思う。
- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている。
- ・問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・学校の宿題をしている。
- ・ふだん（月曜日から金曜日）、携帯電話やスマートフォンなどでインターネットやメールをする1日当たりの時間が少ない、または全くしない。
- ・学校のきまりを守っている。
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

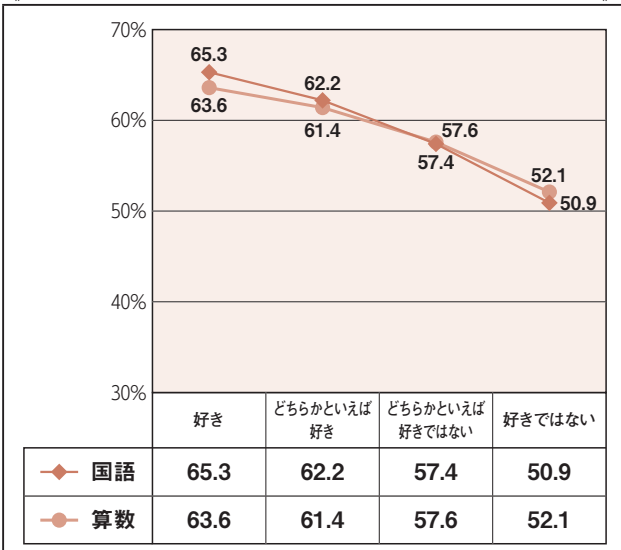
《国語・算数の勉強は好きだ》



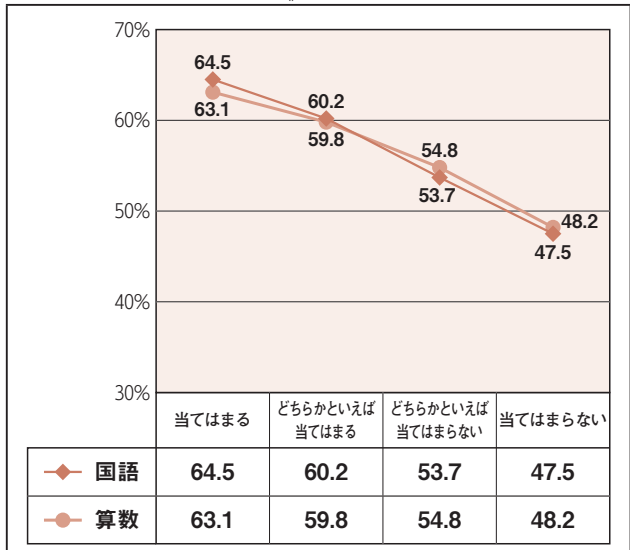
《国語・算数の授業の内容はよく分かる》



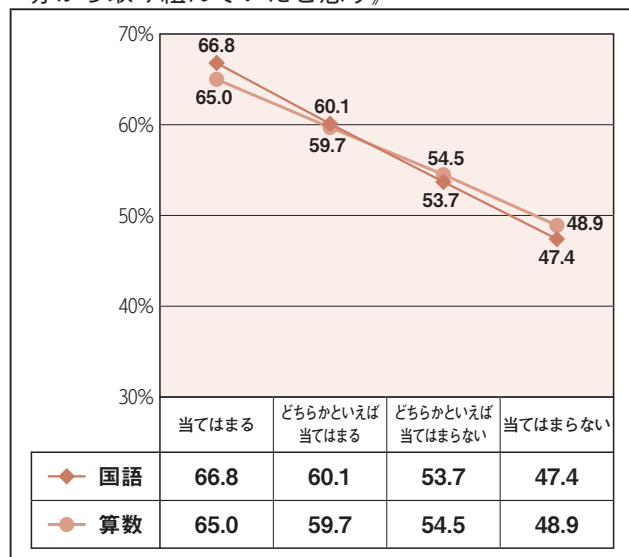
《分からなかったことを、もう一度勉強し直すこと》



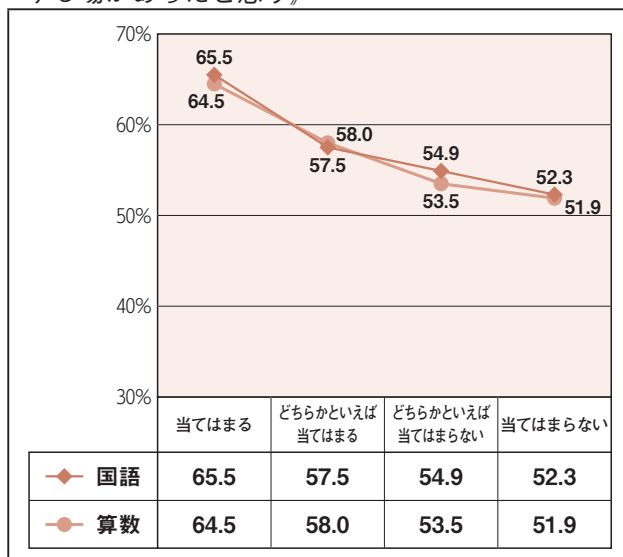
《授業では、目標（めあて・ねらい・課題）をもって学習していたと思う》



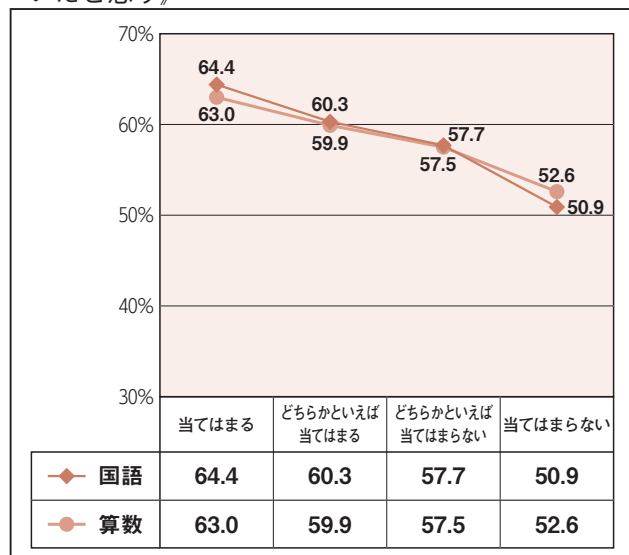
《授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》



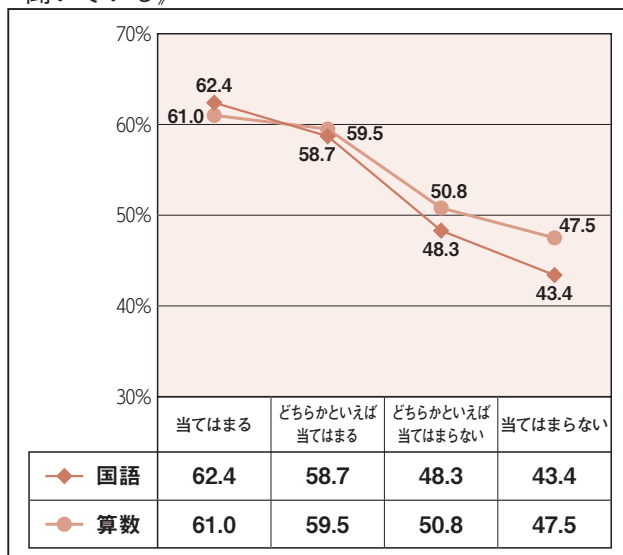
《授業では、自分の考えを発言したり、発表したりする場があったと思う》



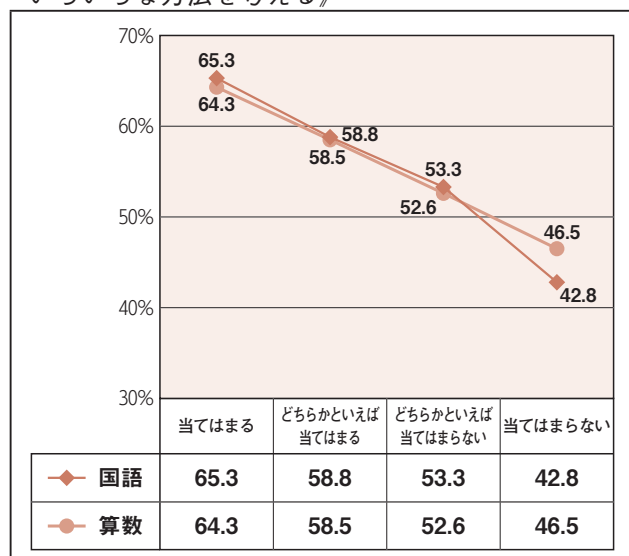
《授業の最後に、学習を振り返る活動をよく行っていたと思う》



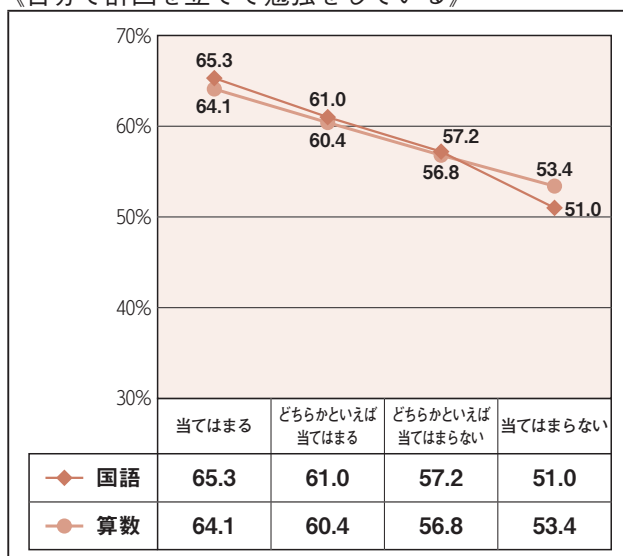
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



《問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》

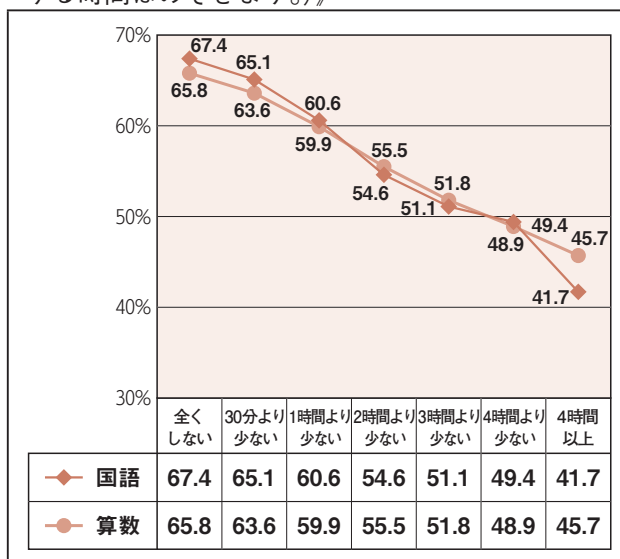
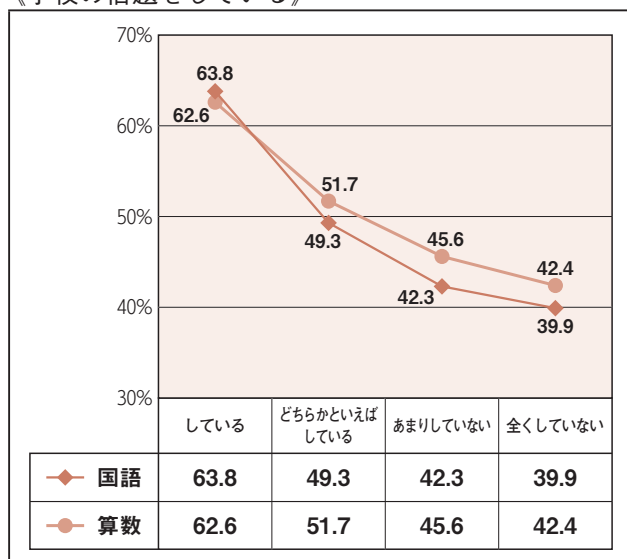


《自分で計画を立てて勉強をしている》

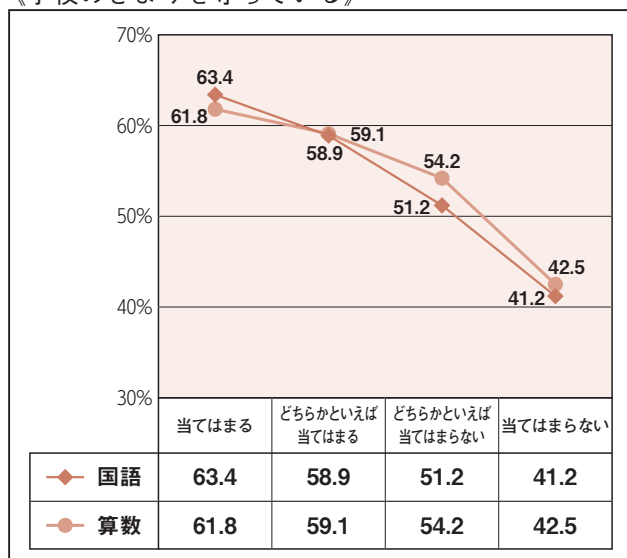


《あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどでインターネットやメールなどをしますか。（携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間はのぞきます。）》

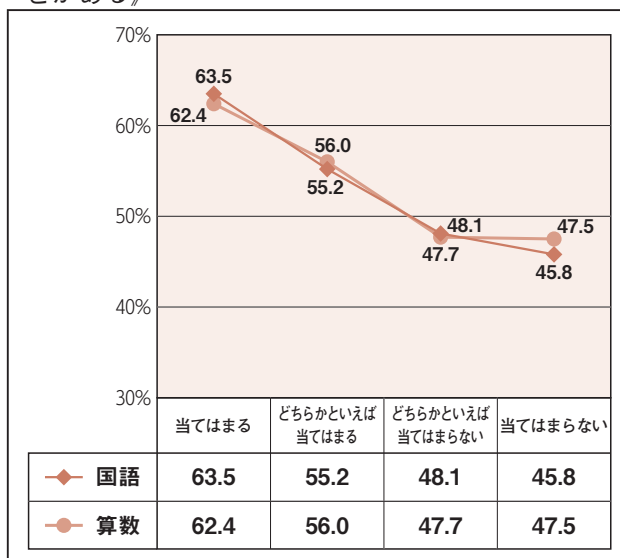
《学校の宿題をしている》



《学校のきまりを守っている》



《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



3 教員の調査結果

令和7年度・8年度は全公立小・中学校（義務教育学校を含む）における教員を対象、令和6年度は抽出した小・中学校（義務教育学校を含む）における教員を対象とした。

「1 学力の重要な要素に関すること」について、肯定的な回答をした教員の割合は、それぞれ90%以上であり、学力の向上に向けた教員の意識は概ね良好である。

学びの12か条+ 1・2

- 「問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力、判断力、表現力等）を育成する指導をしている」教員の割合は、小学校で96.0%、中学校で93.3%であり、これまでと同様に高い。
- 「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合は、小学校で97.1%、中学校で95.1%であり、これまでと同様に高い。

学びの12か条+ 6・7

- 「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている」教員の割合は、小学校で97.7%、中学校で96.0%であり、これまでと同様に高い。
- 「大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を行っている」教員の割合は、小学校で92.0%、中学校で89.4%であり、これまでと同様に高い。

学びの12か条+ 10・11

- 「授業において、明確な評価基準を基に児童生徒の学習状況を把握し、学習指導の改善に生かしている」教員の割合は、小学校で93.3%、中学校で87.7%であり、これまでと同様に高い。
- 「自校の学力向上に向けた計画（学力向上プランなど）に基づく指導をしている」教員の割合は、小学校で94.8%、中学校で90.8%であり、これまでと同様に高い。

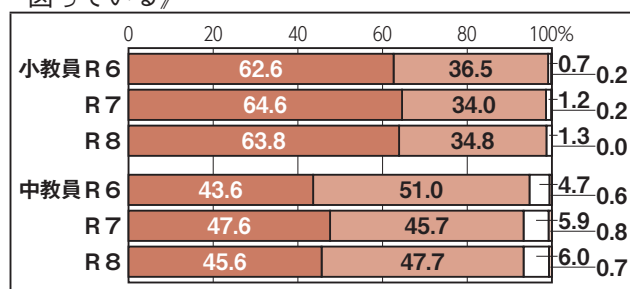
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

次の指導等を、昨年度からどの程度行っていますか。

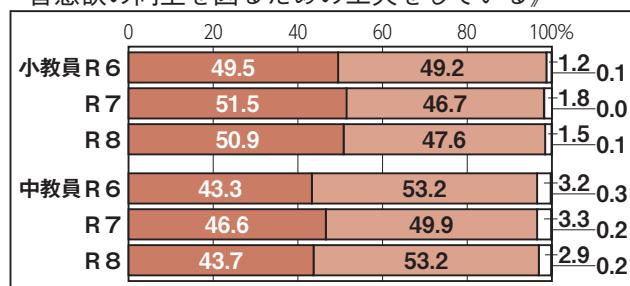
よくしている している あまりしていない ほとんどしていない

1 学力の重要な要素に関すること

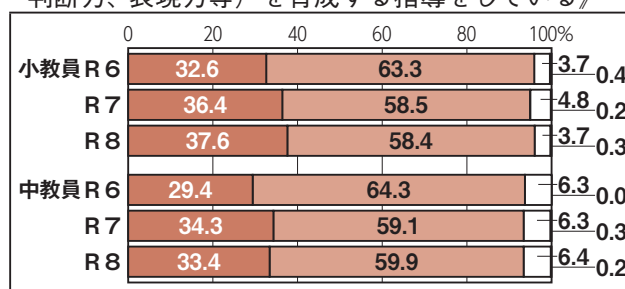
《繰り返し学習（音読、暗記・暗唱、反復学習など）を通して、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っている》



《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》



《問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力、判断力、表現力等）を育成する指導をしている》

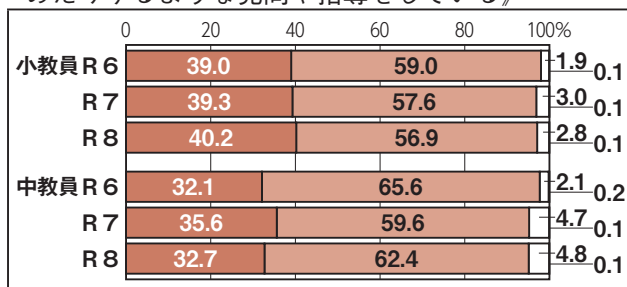


＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

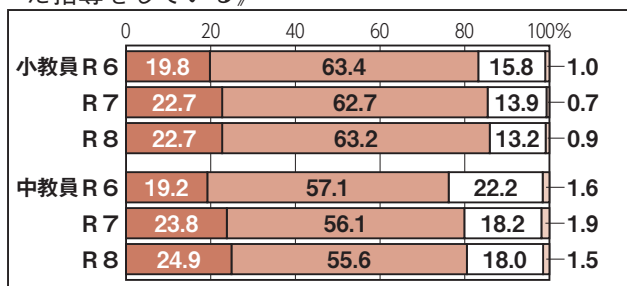
- ・《問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力、判断力、表現力等）を育成する指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で96.0%、中学校で93.3%であり、これまでと同様に高い。
- ・《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で98.5%、中学校で96.9%であり、これまでと同様に高い。

2 教科等に関すること

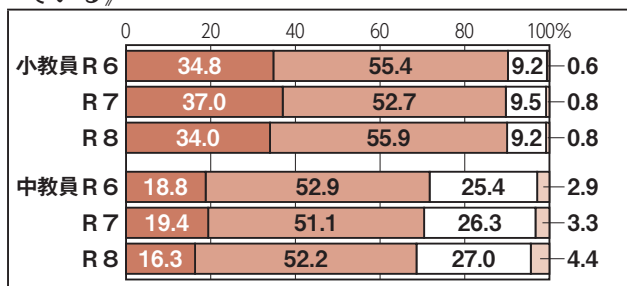
《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》



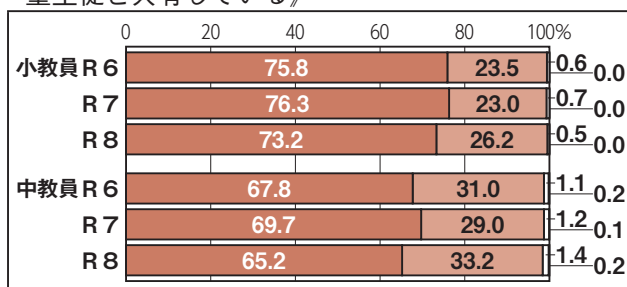
《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》



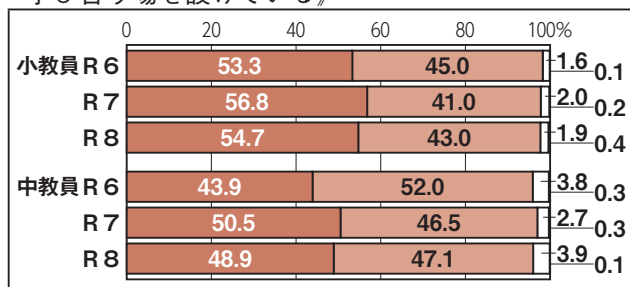
《ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けることができるような指導をしている》



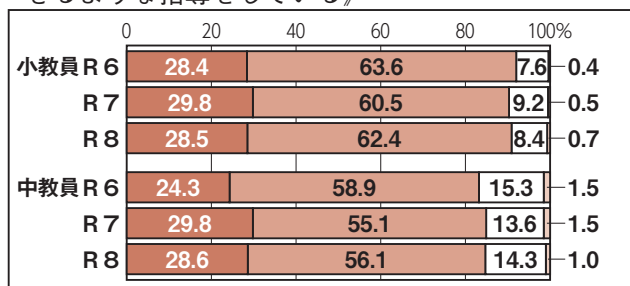
《授業の中で、目標（めあて・ねらい・課題）を児童生徒と共有している》



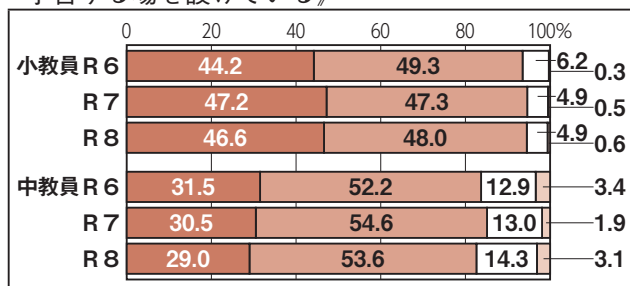
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》



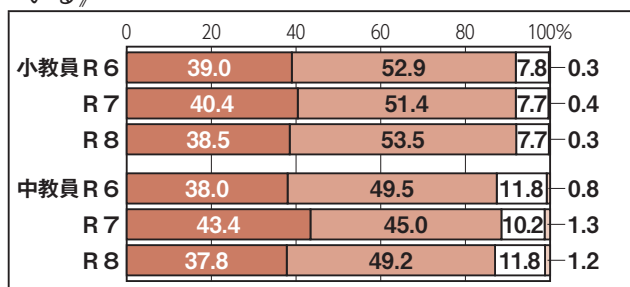
《考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるような指導をしている》



《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》

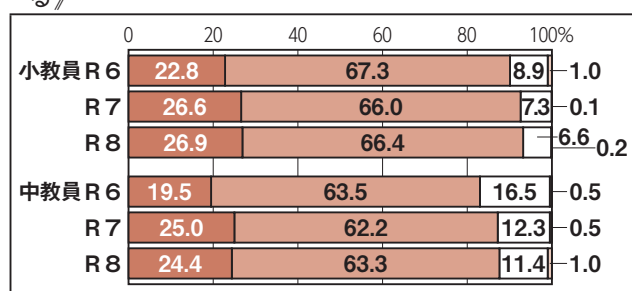


《授業の最後に、学習を振り返る活動を取り入れている》*1

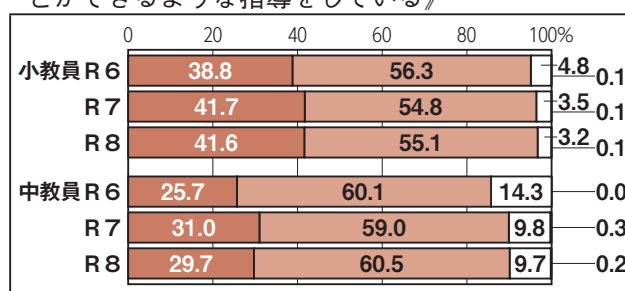


*1 R7年度までは「授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている」

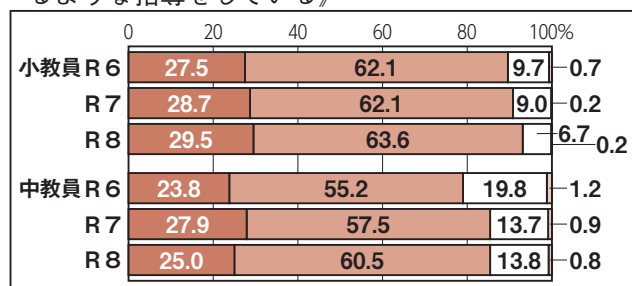
《授業において、明確な評価規準を基に児童生徒の学習状況を把握し、学習指導の改善に生かしている》*2



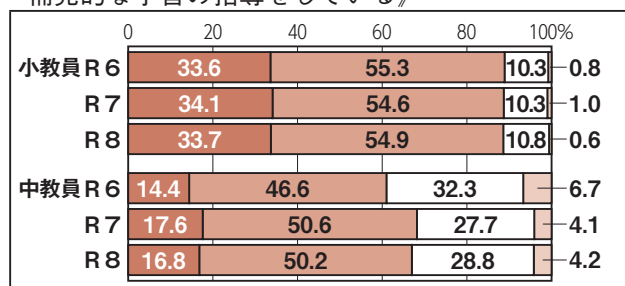
《授業において、児童生徒一人一人が自分の成長や変容を自覚できるようにするなど、自信をもつことができるような指導をしている》



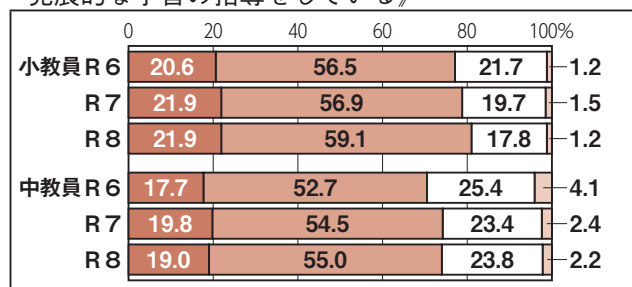
《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるような指導をしている》



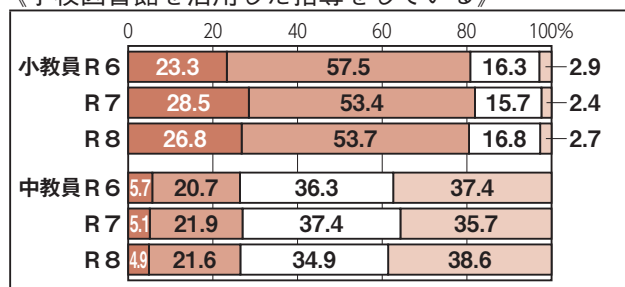
《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》



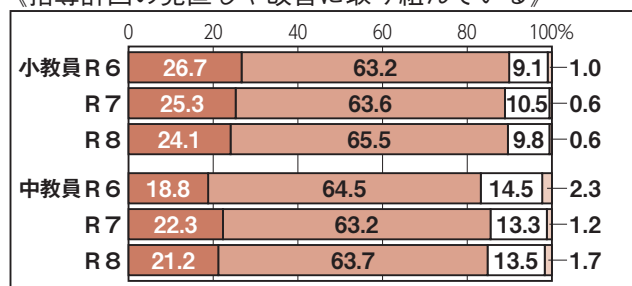
《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》



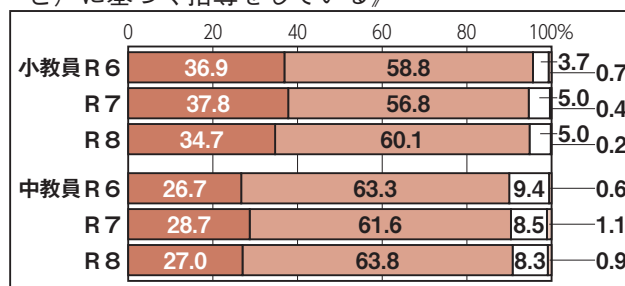
《学校図書館を活用した指導をしている》



《指導計画の見直しや改善に取り組んでいる》



《自校の学力向上に向けた計画（学力向上プランなど）に基づく指導をしている》*3



*2 R7年度までは「授業において、明確な評価規準を基に児童生徒の定着状況を把握し、学習指導の改善に生かしている」

*3 R6年度は「自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている」

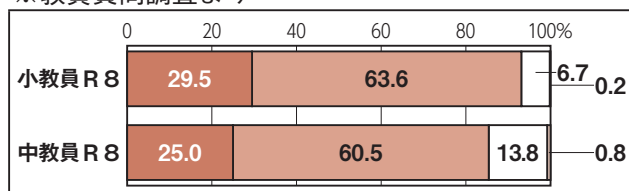
＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

- ・《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で85.9%、中学校で80.5%であり、中学校では調査開始以来最も高い。
- ・《授業の中で、目標（めあて・ねらい・課題）を児童生徒と共有している》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で99.4%、中学校で98.4%であり、小学校では調査開始以来最も高い。
- ・《授業において、児童生徒一人一人が自分の成長や変容を自覚できるようにするなど、自信をもつことができるような指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で96.7%、中学校で90.2%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるような指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で93.1%、中学校で85.5%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で81.0%、中学校で74.0%であり、小学校では調査開始以来最も高い。

＜その他、留意する項目＞

《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるような指導をしている》

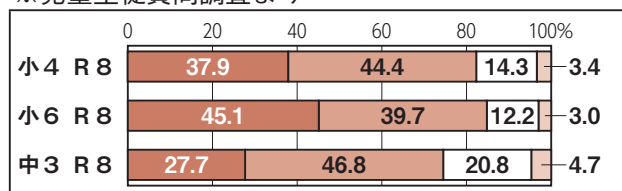
※教員質問調査より



《授業で学習したことを、ふだんの生活で生かすことができると思う》 小4

《授業で学習したことを、普段の生活で活用できると思う》 小6・中3

※児童生徒質問調査より

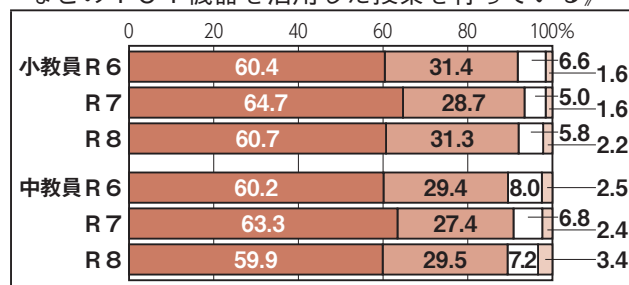


- ・《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるような指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で93.1%、中学校で85.5%であり、調査開始以来最も高い。また、児童生徒の調査結果では、小4《授業で学習したことを、ふだんの生活で生かすことができると思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は82.3%、小6・中3《授業で学習したことを、普段の生活で活用できると思う》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6で84.8%、中3で74.5%である。

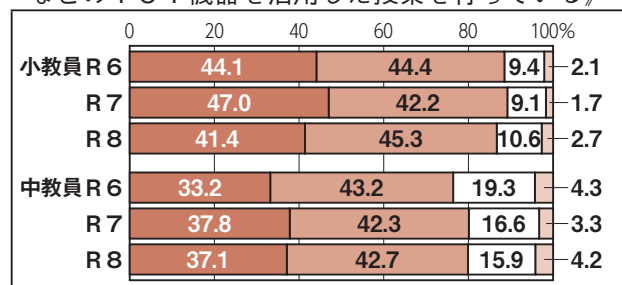
3

ICTの活用に関すること

《大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を行っている》

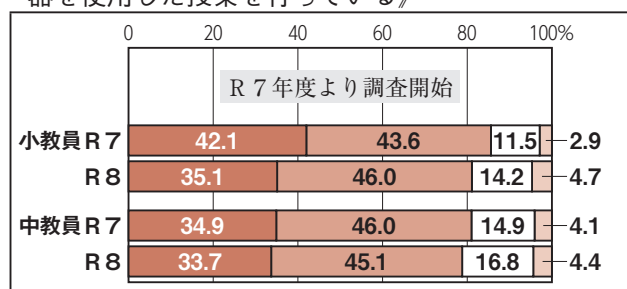


《児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用した授業を行っている》* 4

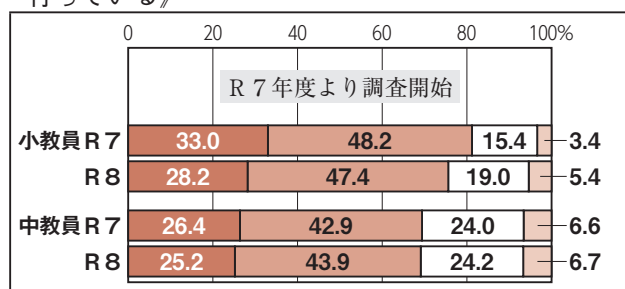


* 4 R 7年度までは「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている」

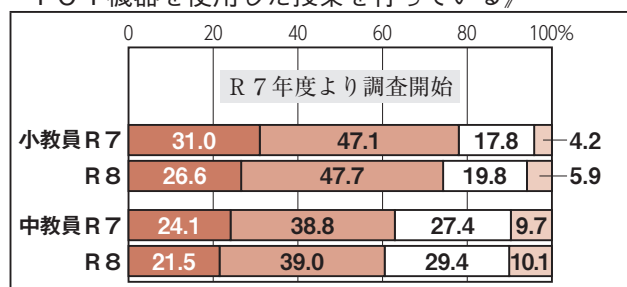
《児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索など）で、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレット等のＩＣＴ機器を使用した授業を行っている》



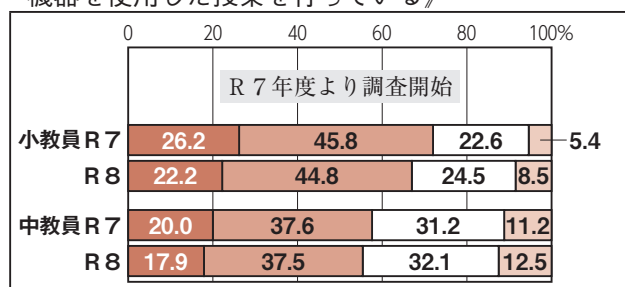
《児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用した授業を行っている》



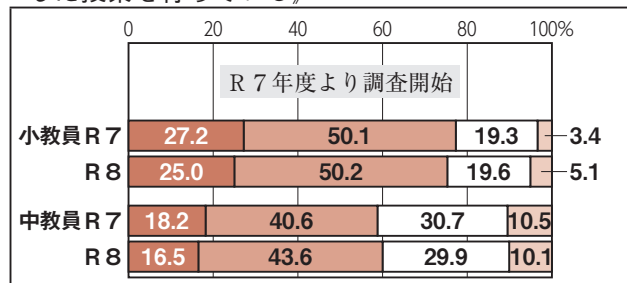
《教職員と児童生徒がやり取りする場面で、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用した授業を行っている》



《児童生徒同士がやり取りする場面で、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用した授業を行っている》



《児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用した授業を行っている》

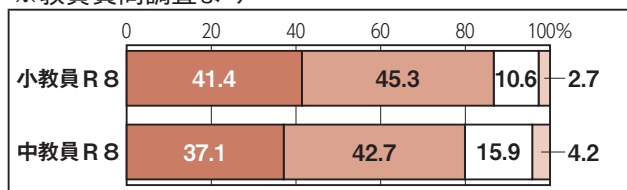


＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

・《大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのＩＣＴ機器を活用した授業を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で92.0%、中学校で89.4%であり、これまでと同様に高い。

＜その他、留意する項目＞

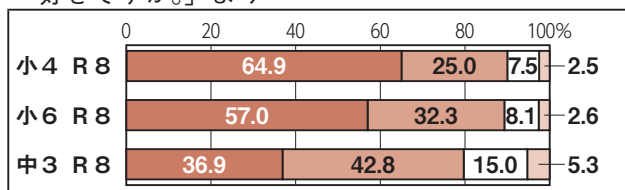
《児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用した授業を行っている》
※教員質問調査より



《コンピュータなどのＩＣＴ機器を使って勉強すること》 小4

《ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って勉強すること》 小6・中3

※児童生徒質問調査「授業の中で次のようなことは好きですか。」より

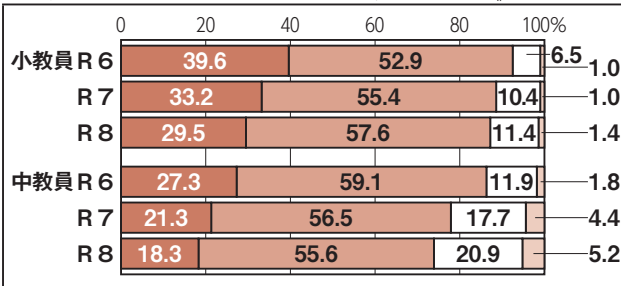


・《児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用した授業を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で86.7%、中学校で79.8%である。また、児童生徒の調査結果では、小4《コンピュータなどのＩＣＴ機器を使って勉強すること》について、肯定的な回答をした児童の割合は89.9%、小6・中3《ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6で89.3%、中3で79.7%である。

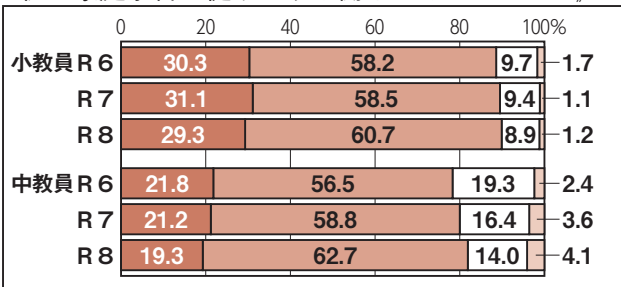
4

家庭学習に関すること

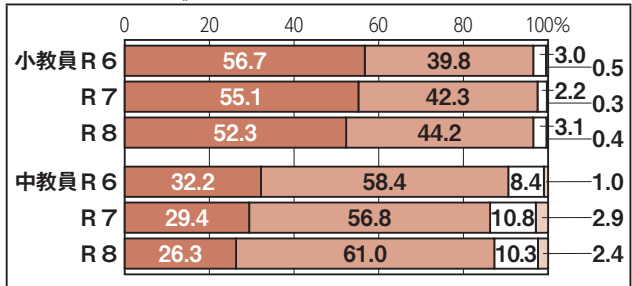
《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている》



《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》



《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》



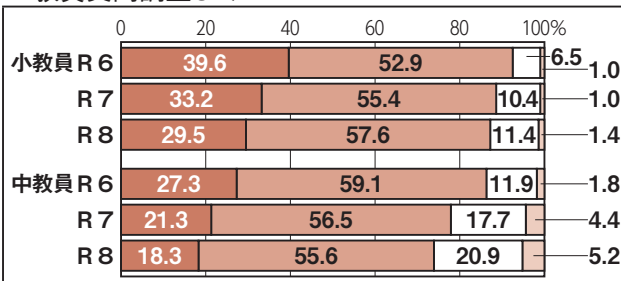
＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

・《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で96.5%、中学校で87.3%であり、これまでと同様に高い。

＜その他、留意する項目＞

《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている》

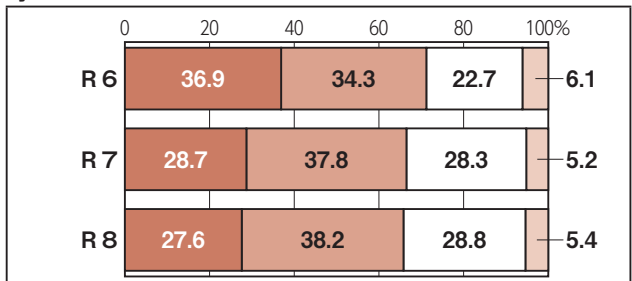
※教員質問調査より



《自分で計画を立てて勉強している》

※児童生徒質問調査より

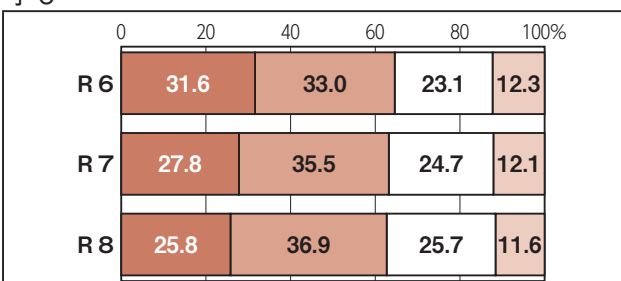
小4



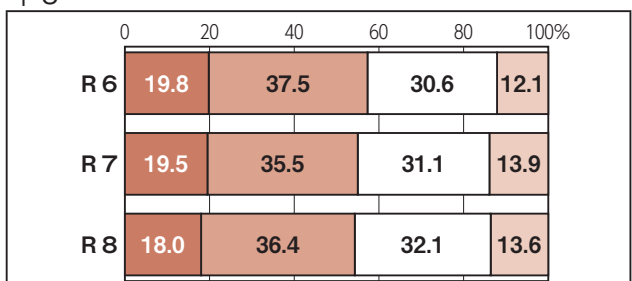
《家で自分で計画を立てて勉強している（学校の授業の予習や復習を含みます）》

※児童生徒質問調査より

小6



中3

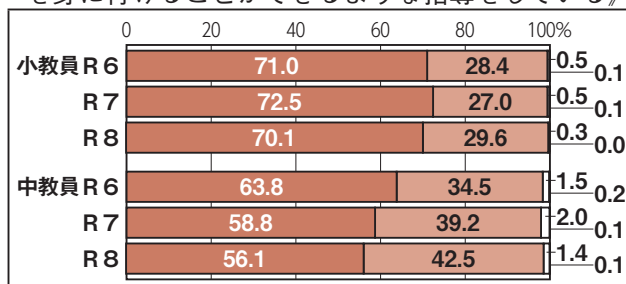


・《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で87.1%、中学校で73.9%であり、R7年度より中学校で3.9ポイント減少している。また、児童生徒の調査結果では、小4《自分で計画を立てて勉強している》について、肯定的な回答をした児童の割合は65.8%、小6・中3《家で自分で計画を立てて勉強している（学校の授業の予習や復習を含みます）》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6で62.7%、中3で54.4%である。

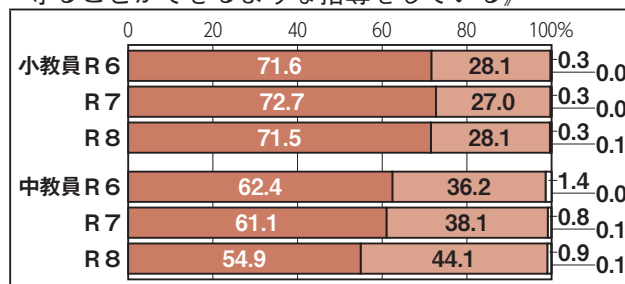
5

学習規律等に関すること

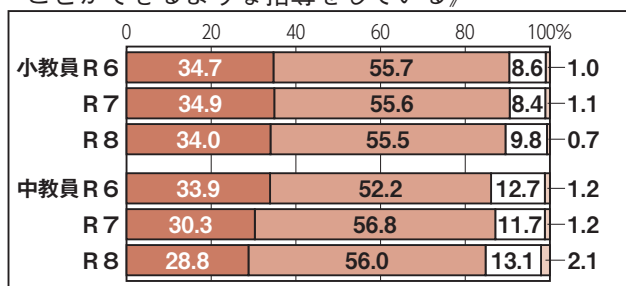
《児童生徒が、学習規律（私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど）を身に付けることができるような指導をしている》



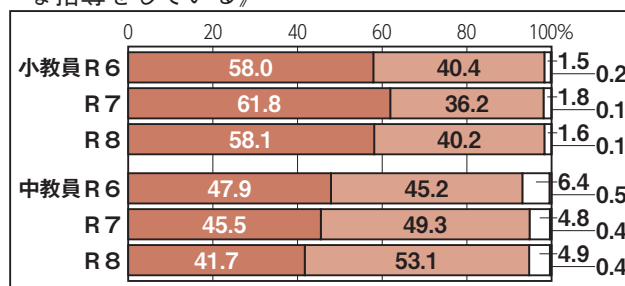
《児童生徒が、校則や集団生活のルール・マナーを守ることができるような指導をしている》



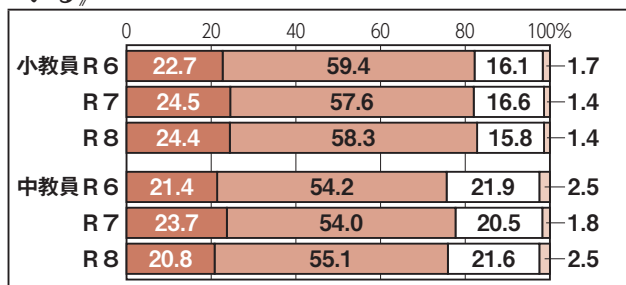
《児童生徒が、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯、テレビ等の視聴時間など）を身に付けることができるような指導をしている》*5



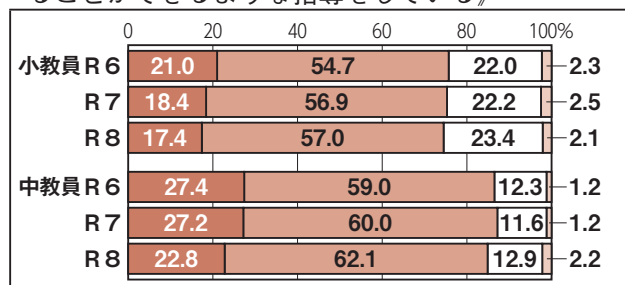
《児童生徒が、進んで挨拶をすることができるような指導をしている》



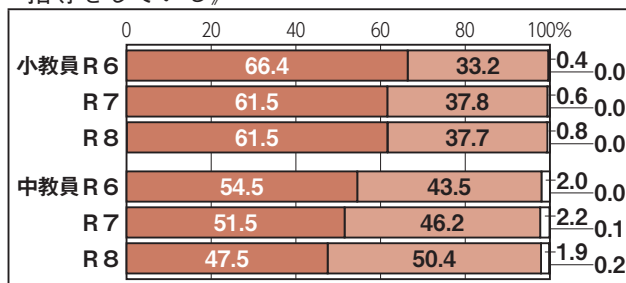
《児童生徒が、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもつことができるような指導をしている》



《児童生徒が、将来就きたい仕事や夢について考えることができるような指導をしている》



《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、児童生徒が、自分のよさを伸ばすことができるような指導をしている》*6



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

・《児童生徒が、学習規律（私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど）を身に付けることができるような指導をしている》《児童生徒が、校則や集団生活のルール・マナーを守ることができるような指導をしている》《児童生徒が、進んで挨拶をすることができるような指導をしている》《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、児童生徒が、自分のよさを伸ばすことができるような指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で98.3%～99.7%、中学校で94.8%～99.0%であり、これまでと同様に高い。

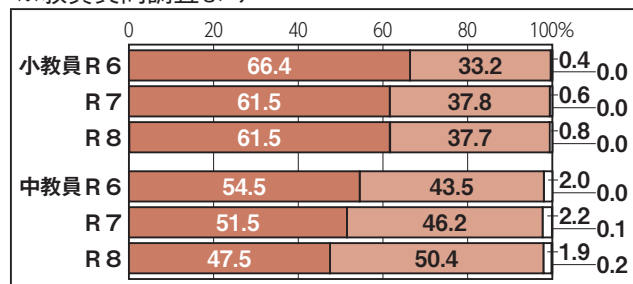
*5 R6年度は「児童生徒が、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯、テレビの視聴時間など）を身に付けることができるような指導をしている」

*6 R6年度は「児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、児童生徒が、長所を伸ばすことができるような指導をしている」

<その他、留意する項目>

《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、児童生徒が、自分のよさを伸ばすことができるような指導をしている》

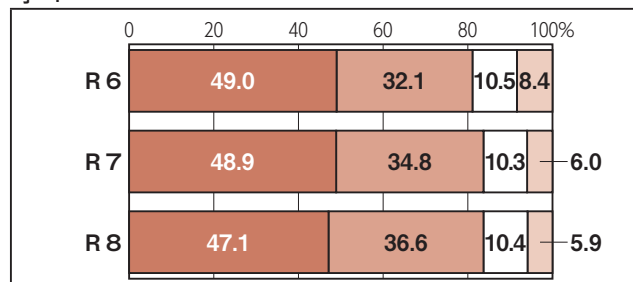
※教員質問調査より



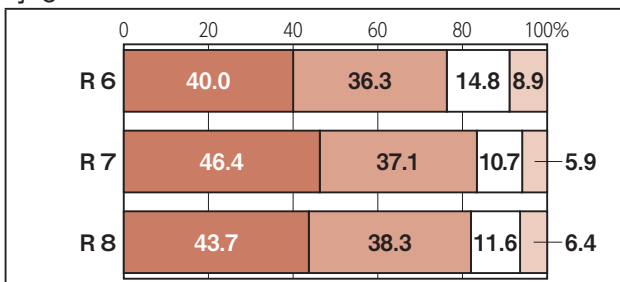
《自分には、よいところがあると思う》

※児童生徒質問調査より

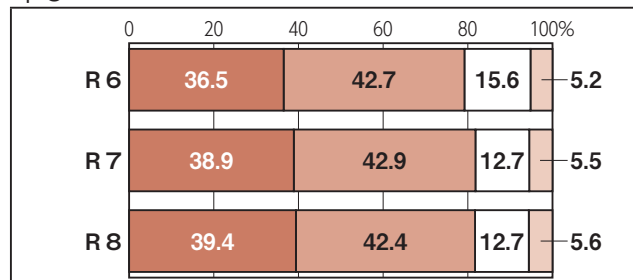
小4



小6



中3



・《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、児童生徒が、自分のよさを伸ばすことができるような指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で99.2%、中学校で97.9%である。また、児童生徒の調査結果では、《自分には、よいところがあると思う》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で83.7%、小6で82.0%、中3で81.8%である。

改訂 いしかわ学びの指針12か条【^{プラス}学びの12か条＋】

活用力を高める授業づくり

1 物事を多様な観点から考察する力の育成

- ・得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
- ・他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方、受け取り方が身に付くようにする

2 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める
- ・各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する

3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

- ・考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
- ・思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

学力・学習を支える基盤づくり

4 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成

- ・目的や状況・相手に応じて適切に「聞く」「話す」ことを、低学年から意図的・計画的に指導する
- ・相手や内容に関心を持ち、安心して最後まで聞き合い、話し合う姿勢や態度が身に付くようにする

5 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成

- ・目的や条件に応じ、質や量を考えて書くことができるようにする
- ・文章や表・グラフなどから、必要な情報や価値のある情報を読み取ることができるようにする

6 よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視

- ・多様性を尊重する態度と、互いのよさを生かして協働する力が身に付くようにする
- ・目的やねらいに向け、相互の考えを整理したりまとめ上げたりする技能が身に付くようにする

7 主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進

- ・ICTを効果的に活用した分かりやすく深まる授業づくりを進める
- ・学校・地域にあるリソースを生かし、ICTの活用スキルの確実な定着を進める

8 よりよい学習習慣・生活習慣の定着

- ・家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、よりよい習慣づくりを推進する
- ・豊かな思考・判断の基盤となる子どもの語彙力や読解力を高めるため、読書活動を活性化する

9 家族や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの推進

- ・家庭や地域での大人と子どもの共通の体験や学習、対話を促進する
- ・社会の出来事に関心を持たせ、子どもの視野を広げるとともに、将来への目的意識を持つことができるようにする

指導改善を進める体制づくり

10 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進

- ・学校全体で目標を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的・継続的に課題解決に取り組む
- ・小中連携を推進し、指導の連続性を図る

11 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

- ・児童生徒の現状把握からその原因を究明し、目標に照らした課題と、その改善に向けた具体策を設定する
- ・中長期的な目標を設定し実践するとともに、短期的な目標達成に向け、スモールステップで共通実践を行い、検証・評価・改善を積み上げる【学力向上ロードマップ】

12 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

- ・学校として保護者や地域に、情報や提案を積極的に発信し情報公開に努め、目標や課題を共有する
- ・地域の諸機関、人材との連携協力を進め、地域の子どもの育てる環境づくりを進める

令和 8 年度
「基礎学力調査」—分析・考察と指導事例—

令和 8 年 1 0 月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課
〒920-8575 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地
TEL.076-225-1827
e-mail : gakusi@pref.ishikawa.lg.jp